MIJS

MIJS調査レポート
業務アプリケーションについてのアンケート

2007年1月25日

メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア　コンソーシアム

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

Contents

MIJS

- 調査概要 P.3
- Summary P.4
- 回答者プロフィール P.6
- 情報システムの現状と課題 P.10
- 業務アプリケーション構築状況 P.18
- アプリケーション連携の現状と課題 P.26
- MIJSに期待する活動／成果 P.48

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

調査概要

MIJS

- 調査目的：
  - 情報システムの導入／運用にかかわるITプロフェッショナル層を対象に、現在のシステム構築状況やその課題を調査することで、MIJSの取り組みに対するユーザーニーズを明らかにし、今後のマーケティング／メッセージングに役立つ情報を収集する。
- 調査方法：　Webサイト上の自記式アンケート
- 調査対象者：情報システム導入・開発・運用にかかわるITプロフェッショナル
- 調査期間：　2006年12月5日～12月17日
- 総回答数：　1078件
- 調査機関：　アイティメディア株式会社

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

Summary #1

MIJS

現在の情報システム課題と注目のITソリューションとは？

- 情報システム導入・運用上の課題として、ITプロフェッショナルの61%が「システム品質／信頼性の向上」、53%が「システム導入／運用コスト削減」、42%が「システムの迅速な構築／再構築」を挙げており、ビジネスが急速に変化する環境下で**IT導入・運用の“QCD”が改めて問われている**ことが分かります。
- そうした中で情報セキュリティ強化と並び、企業の迅速な環境適応を支援する**ビジネスプロセス管理（BPM）やSOAによるアプリケーション連携ソリューション**に、関係者の大きな注目が集まっています。

業務アプリケーションの構築状況

- 現在の業務アプリケーション構築形態を見ると、業務内容に合わせてアプリケーションを独自に開発する“スクラッチ開発”の採用率が、61%に上っています。しかしIT構築のQCDが重視される中、今後主流となる手法として、**ITプロフェッショナルの過半数が最適なパッケージ製品を組み合わせる“Best of Breed”型アプリケーション構築を支持しています。**
- ITプロフェッショナルは、今後業務パッケージ製品を選択する際に「ユーザーの使いやすさ」「導入コスト」「品質／信頼性」を重視しています。逆に「世界的に市場シェアが高いこと」の重視度は5%に留まっており、**ブランドよりもクオリティを重視する製品選択意向が高まっています。**

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

Summary #2

MIJS

アプリケーション連携の現状と課題とは？

- ITプロフェッショナルの7割が現在アプリケーション連携を実施または構築／予定中と答えており、パッケージ導入と共にその“連携”が、IT構築の基盤となっています。
- 現在のAP連携手法は個別インターフェイス開発やファイル転送が主流ですが、そこには「**マスターデータの連携／同期**」をはじめとして「障害対応のためのロギング／リカバリ」、「複数AP間のワークフロー統合管理」といった様々な課題が浮かび上がっています。今後のAP連携手法としてもっとも期待される**SOAが普及するためにも、こうした連携課題の解決が強く求められる**でしょう。

MIJSに期待する活動・成果とは？

- ITプロフェッショナルは、MIJSの「アプリケーション連携に関する技術情報やノウハウの公開」「アプリケーション製品間の連携／相互運用性の検証・実績公表」といった活動・成果に、強く期待しています。
- IT構築のQCDにフォーカスし、ユーザビリティや品質の優れた “Made In Japan”製品とその連携課題を克服する具体的な情報やソリューションを提供することが、“**日本のソフトウェアビジネスを変える**”原動力となるでしょう。

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

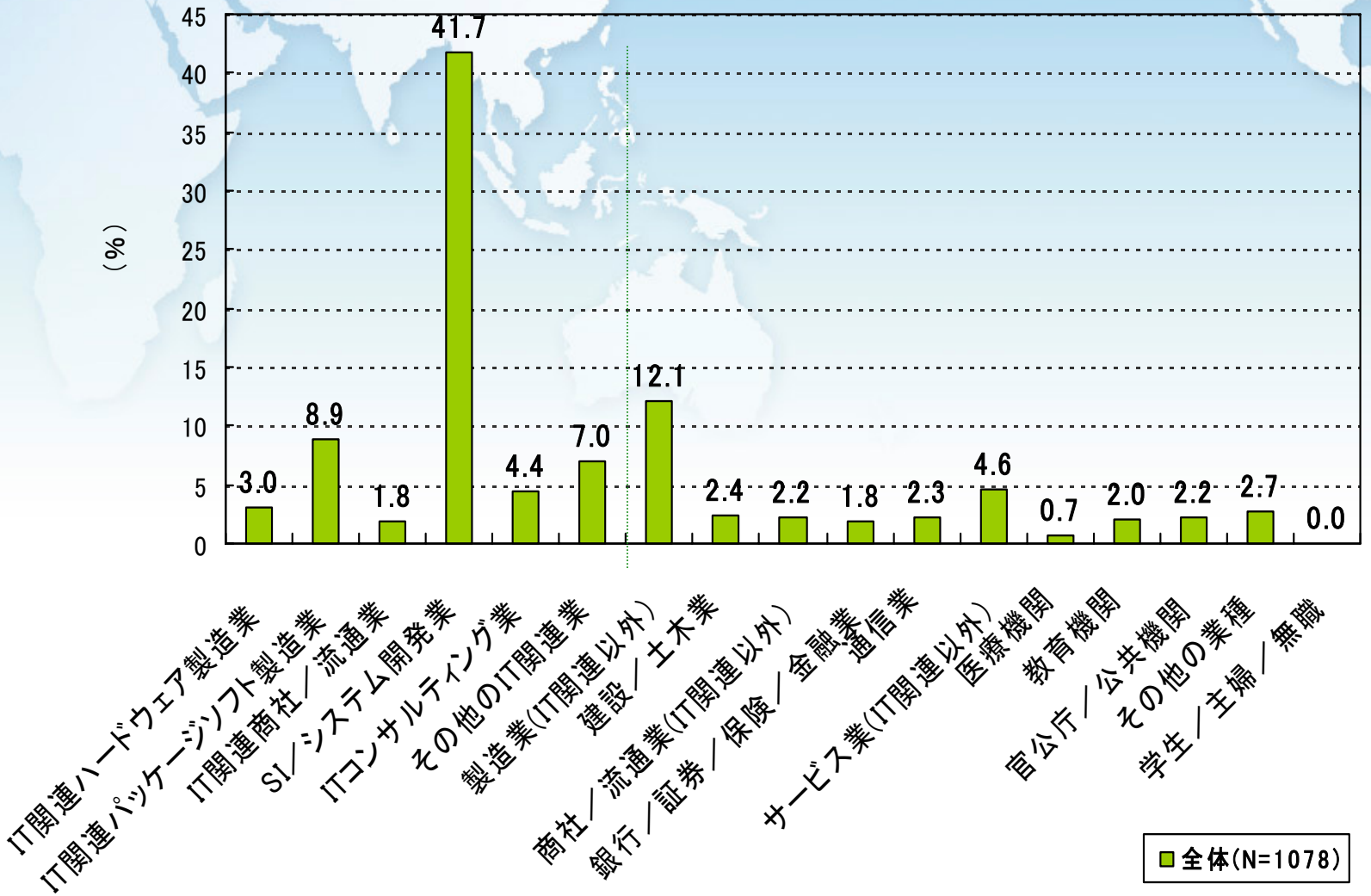
回答者プロフィール

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

勤務先業種

MIJS

•あなたのお勤め先の業種を、ひとつだけお選びください。

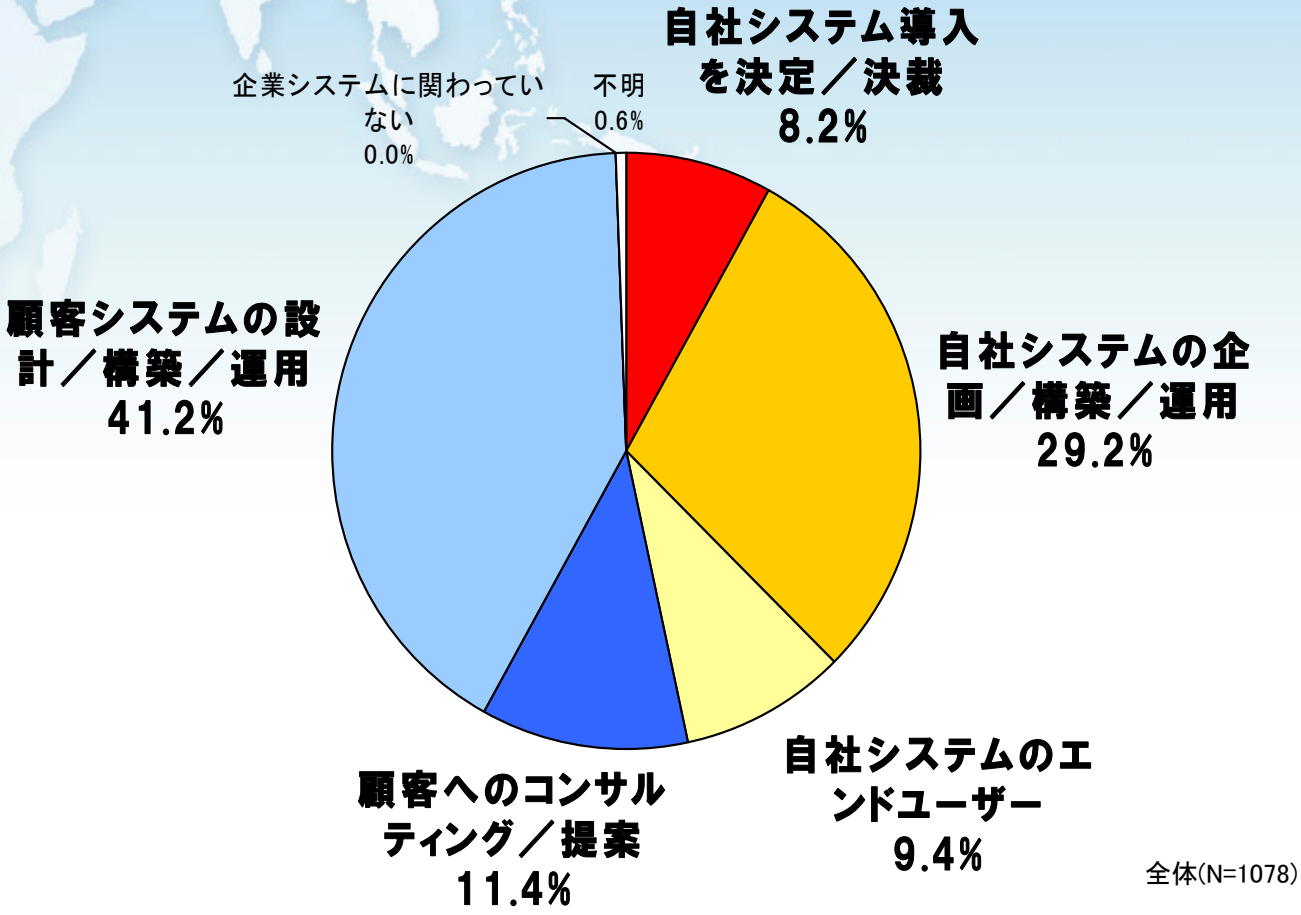


Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

企業情報システムに関わる立場

MIJS

•あなたは企業情報システムに、主にどのような立場でかかわっていますか？



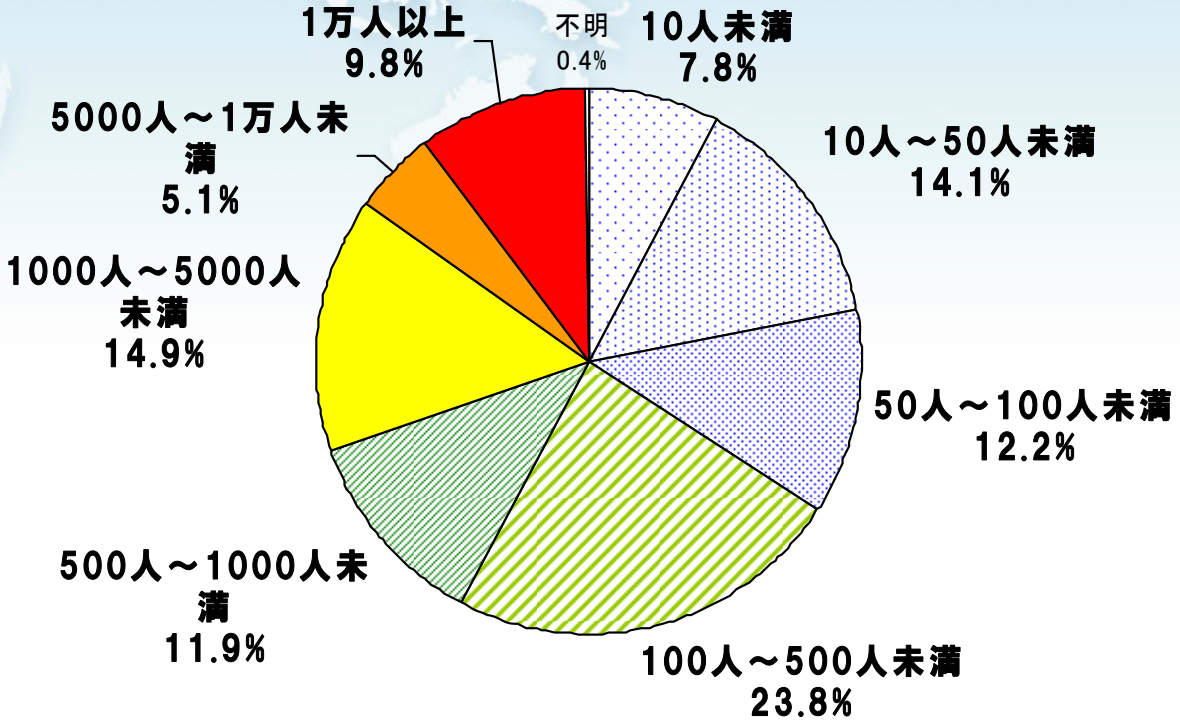
全体(N=1078)

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

関与するシステムのユーザー規模

MIJS

•あなたが現在かかわる情報システムのユーザー規模を、1つだけお選びください



全体(N=1078)

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

情報システムの現状と課題

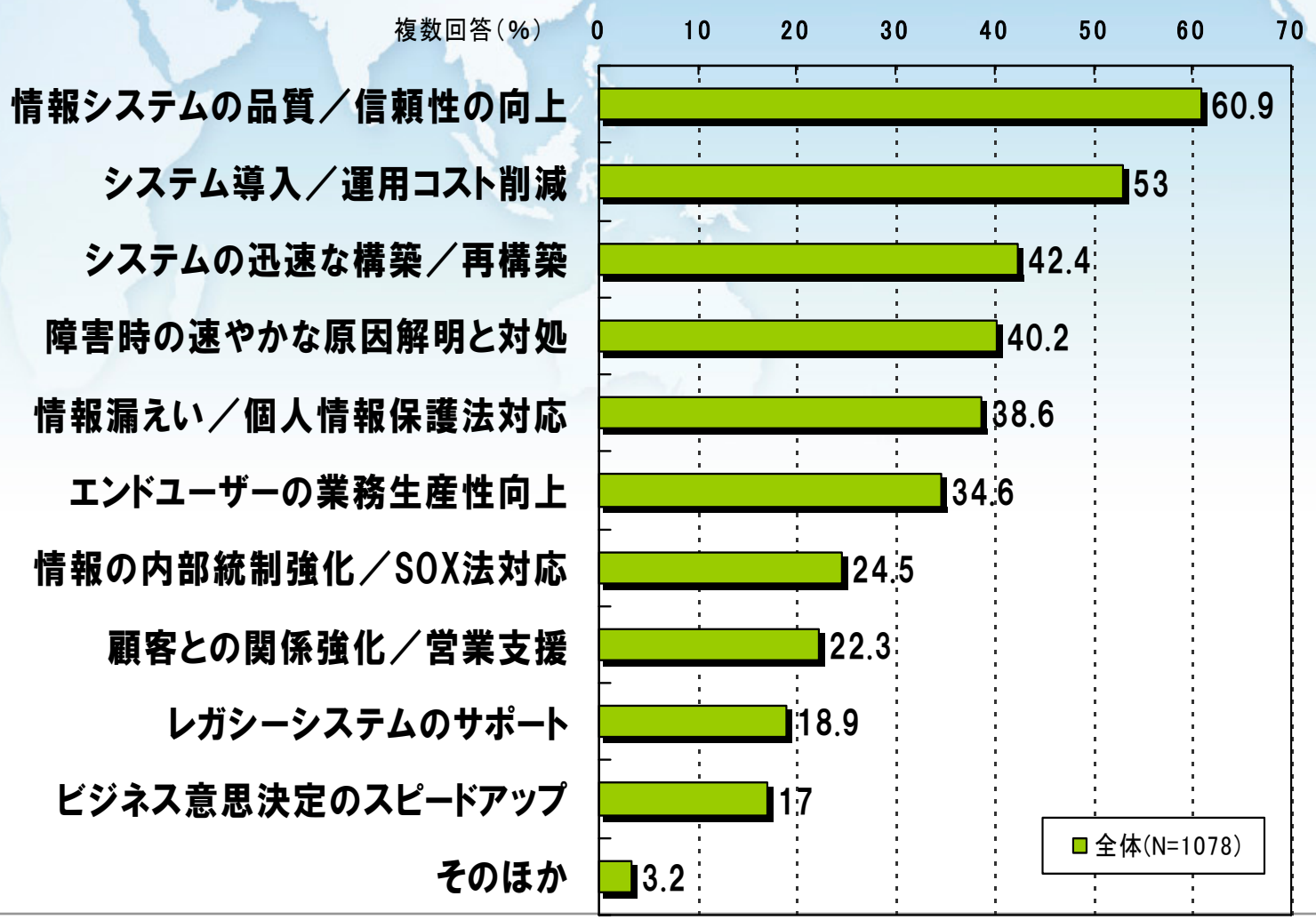
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

情報システム導入／運用上の課題

MIJS

■ ITの“QCD”要因が、上位課題に挙げられています。

・その情報システムを導入／運用するうえで、課題・問題となっている点があれば、いくつでもお選びください。



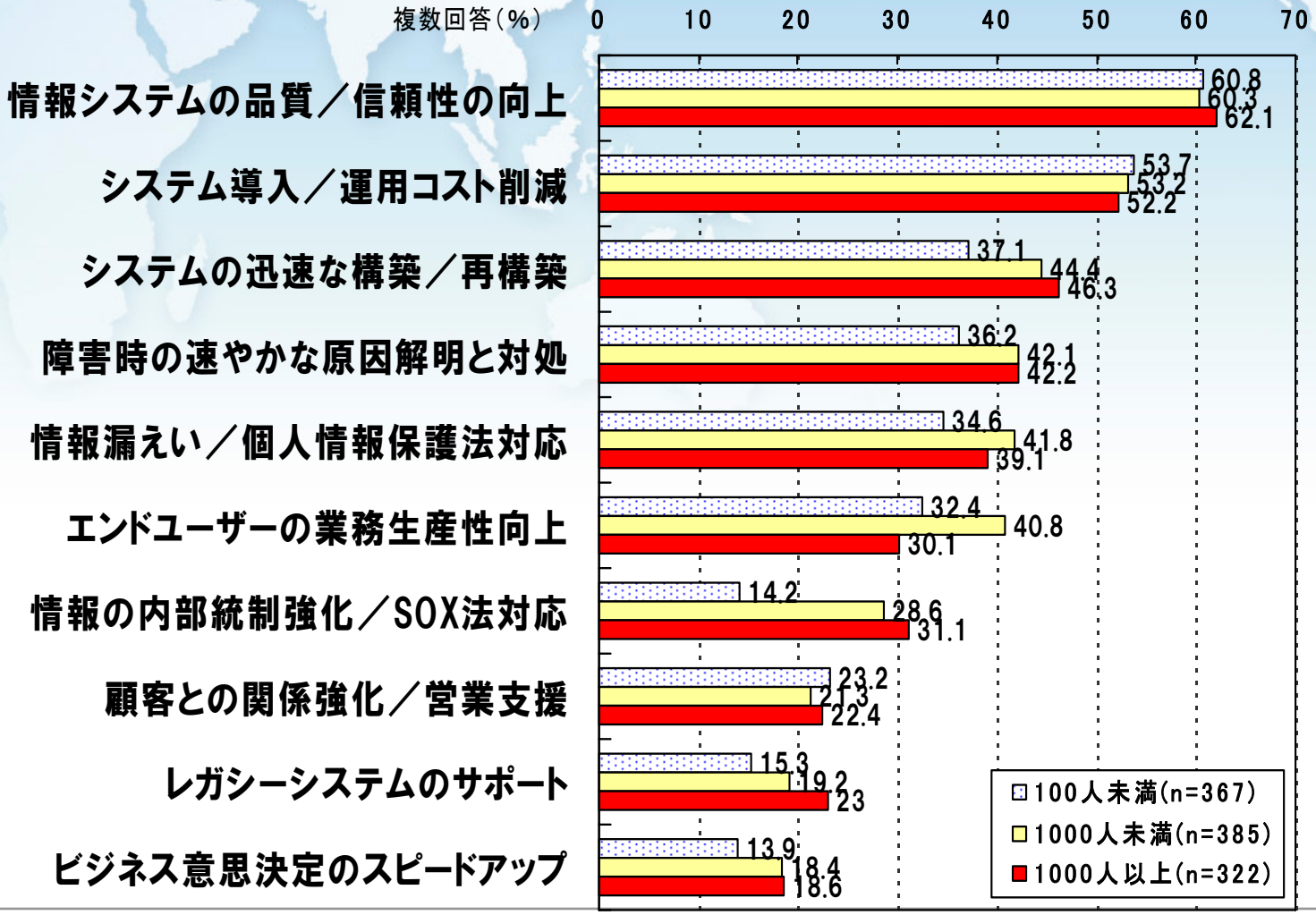
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

情報システム導入／運用上の課題（規模別）

MIJS

■ 中規模以上の企業では、SOX法対応」への関心が高まっています。

•その情報システムを導入／運用するうえで、課題・問題となっている点があれば、いくつでもお選びください。



Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

情報システム導入／運用上の課題・問題点(「その他」コメント)

MIJS

- **コメント:業種:システムに関わる立場:ユーザー規模**
- ITスキルの低いスタッフへの指導:医療:導入決定/決裁:500人未満
- VISTA/IE7対応:SI/開発業:顧客システム実務:5000人未満
- エンドユーザのITリテラシーの低さによる諸問題。経営層・本店事務部署の無知・無理解による、ヒト・モノ・カネ等のリソース不足:建設/土木:自社情シス:5000人未満
- エンドユーザの教育:SI/開発業:顧客システム実務:100人未満
- ガバナンス:通信:自社情シス:1万人以上
- システムと業務の位置づけの決定が難しい。業務に合わせたシステムを構築するのか、既存のシステムの改良版に社員の業務を合わせるのかで、結論を出すことが難しい会社が多々見られる:IT系SW製造:コンサル:100人未満
- システムの柔軟性と簡便性の両立:IT系SW製造:顧客システム実務:100人未満
- システムの処理スピードと、インフラ:IT系SW製造:顧客システム実務:1万人未満
- システム改良(保守)業務の属人化:SI/開発業:顧客システム実務:5000人未満
- システム部門の現場からの遊離:製造業:エンドユーザ:1万人以上
- パッケージ導入にもかかわらず、業務を変更しない。:SI/開発業:顧客システム実務:1000人未満
- プロバイダーの頻繁なサーバートラブル:その他:導入決定/決裁:10人未満
- レスポンス:SI/開発業:顧客システム実務:50人未満
- 開発におけるマネジメント層の薄さ:SI/開発業:顧客システム実務:50人未満
- 業務部門の積極的な参加:製造業:自社情シス:5000人未満
- 経営者もしくは決裁権者の意向:通信:自社情シス:5000人未満
- 経営陣の無理解:IT系HW製造:自社情シス:500人未満
- 現場と監視センターの情報共有の均一化:その他IT系:顧客システム実務:50人未満
- 古いシステムの動きにこだわるエンドユーザー:SI/開発業:顧客システム実務:50人未満
- 顧客のITに対する知識の欠乏:SI/開発業:顧客システム実務:100人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

情報システム導入／運用上の課題・問題点(「その他」内容 つづき)

MIJS

- **コメント:業種:システムに関わる立場:ユーザー規模**
- 顧客企業のシステム導入担当者がこちら(SIer)の意見を全く聞かない。:SI/開発業:顧客システム実務:5000人未満
- 顧客側の情報システム担当者がいない:ITコンサル:顧客システム実務:50人未満
- 顧客要件が明確になっていない:SI/開発業:顧客システム実務:50人未満
- 使い勝手の良さ:SI/開発業:自社情シス:50人未満
- 社内に存在する複数の他システムとの親和性(SOAなど):SI/開発業:コンサル/提案:500人未満
- 社内の情報化とは？という意識改革:サービス業:自社情シス:50人未満
- 情報システム投資を定量化し、誰にでも内容が評価できるようにすること:製造業:自社情シス:1000人未満
- 操作性の向上、データ活用における帳票作成方法:製造業:自社情シス:1000人未満
- 大規模地震などの災害対策:その他:自社情シス:1万人未満
- 担当者の教育訓練:その他:エンドユーザ:10人未満
- 特殊処理に柔軟に対応しやすいシステム作り:製造業:顧客システム実務:1000人未満
- 特定のベンダー一社依存の保守体制見直し:SI/開発業:コンサル/提案:1万人以上

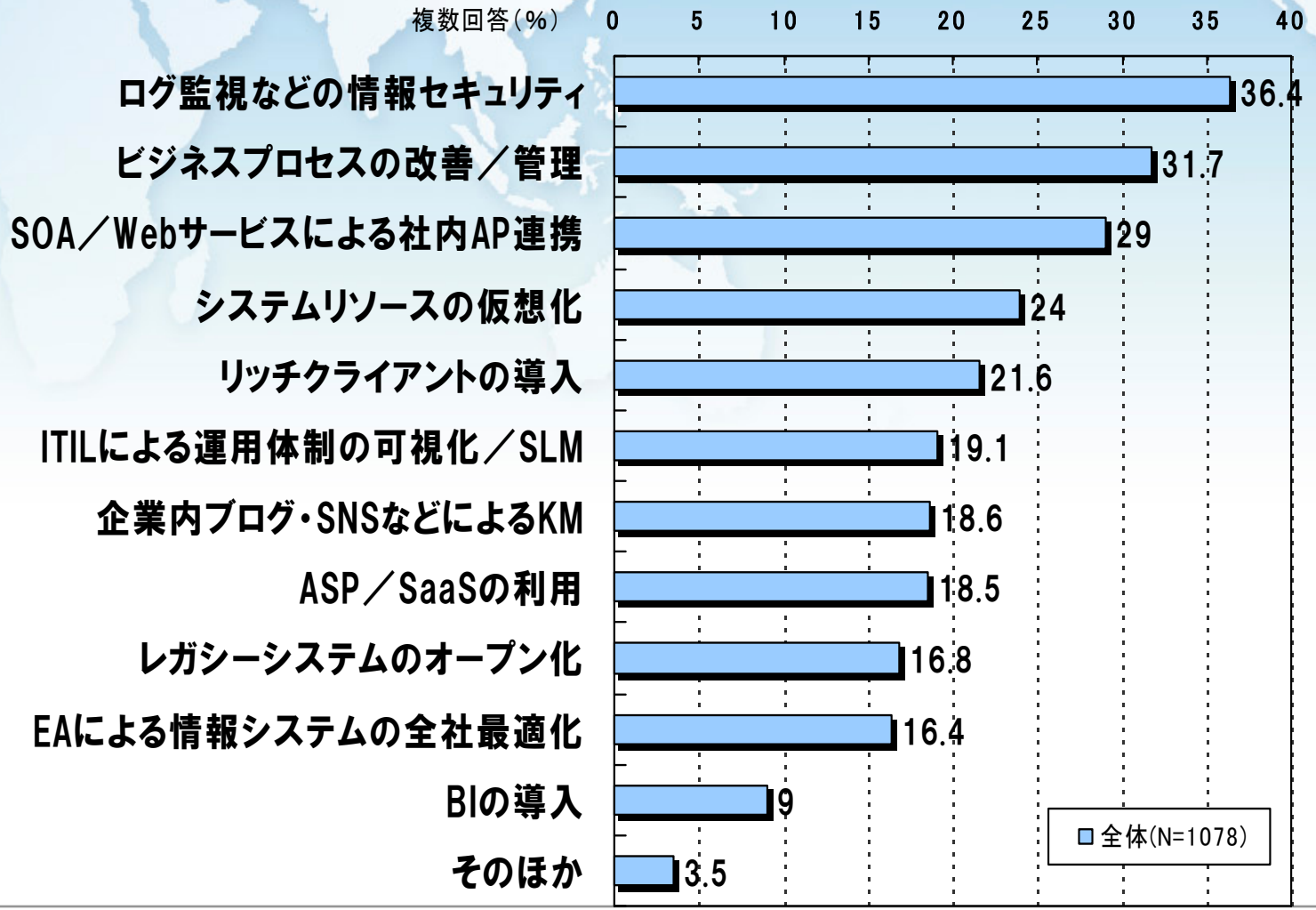
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

現在注目しているITソリューション

MIJS

■ 情報セキュリティに続き、BPMやSOAによるアプリケーション連携が注目されています。

・上記のような課題・問題の解決策として、あなたが注目しているITソリューションがあれば、いくつでもお選びください。



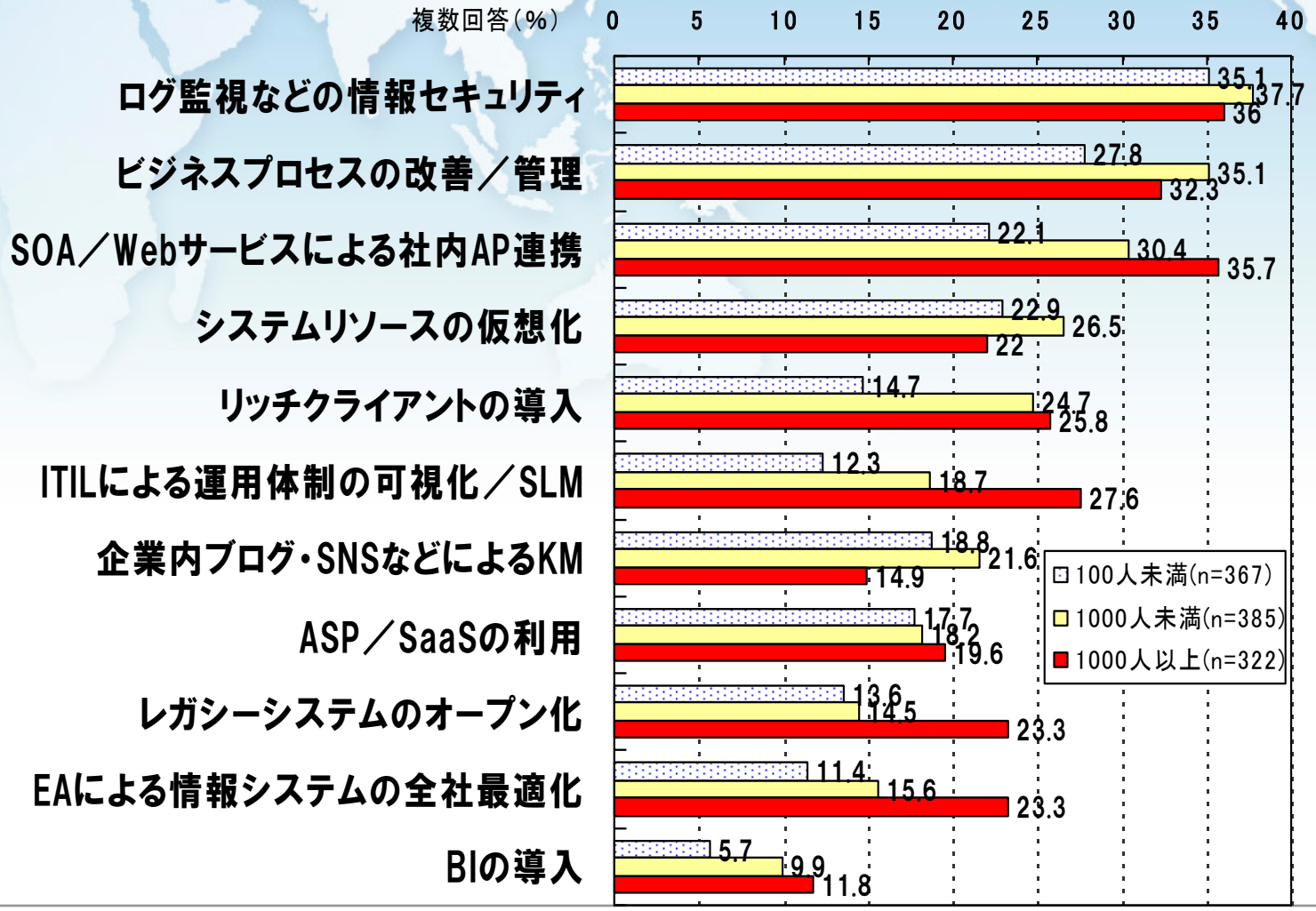
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

現在注目しているITソリューション（規模別）

MIJS

■ 大企業ではSOA・ITIL・レガシー移行・EAの注目ポイントが高くなっています。

・上記のような課題・問題の解決策として、あなたが注目しているITソリューションがあれば、いくつでもお選びください。



Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

注目のITソリューション(「その他」のコメント)

MIJS

- **コメント:業種:システムに関わる立場:ユーザー規模**
- CRM:通信:自社情シス:10人未満
- IT宣伝用語からの脱皮:製造業:エンドユーザ:1万人以上
- Linuxの利用:IT系SW製造:コンサル/提案:1万人以上
- Wagby:IT系SW製造:エンドユーザ:500人未満
- XP.testfirst:製造業:自社情シス:100人未満
- アジャイル手法により、開発側とユーザー側のコミュニケーションを密接にする:SI:顧客システム実務:500人未満
- オープンソース:サービス業:コンサル/提案:500人未満
- サーバベースコンピューティング。:SI/開発業:顧客システム実務:500人未満
- それぞれ個別の運用に合わせたシステム:製造業:自社情シス:50人未満
- ちゃんとしたオブジェクト指向の適用:SI/開発業:顧客システム実務:1万人未満
- パッケージシステム導入による業務改善:SI/開発業:自社情シス:500人未満
- ばらばらに乱立したシステムの連携:製造業:自社情シス:500人未満
- フレームワーク:SI/開発業:顧客システム実務:500人未満
- プロジェクト管理ツール:製造業:自社情シス:1000人未満
- 基幹システムに並列に設置された業務監視サーバーの設置:医療:自社情シス:1000人未満
- 業務のオフショアリング:通信:エンドユーザ:1万人未満
- 業務プロセスと個々人のノウハウの可視化:SI/開発業:顧客システム実務:5000人未満
- 銀の弾丸は無いでしょう。:SI/開発業:顧客システム実務:50人未満
- 現状、情報システム部署との連携に不足があり、よい解決策を模索中。:IT系HW製造:自社情シス:1000人未満
- 上記のITソリューションじゃ解決できないから苦労してる。ソリュションの問題ではない:ITコンサル:500人未満
- 同業他社製品への乗り換え:その他IT系:自社情シス:500人未満
- 独自仕様のアプリケーションの導入:SI/開発業:顧客システム実務:1000人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

業務アプリケーション構築状況

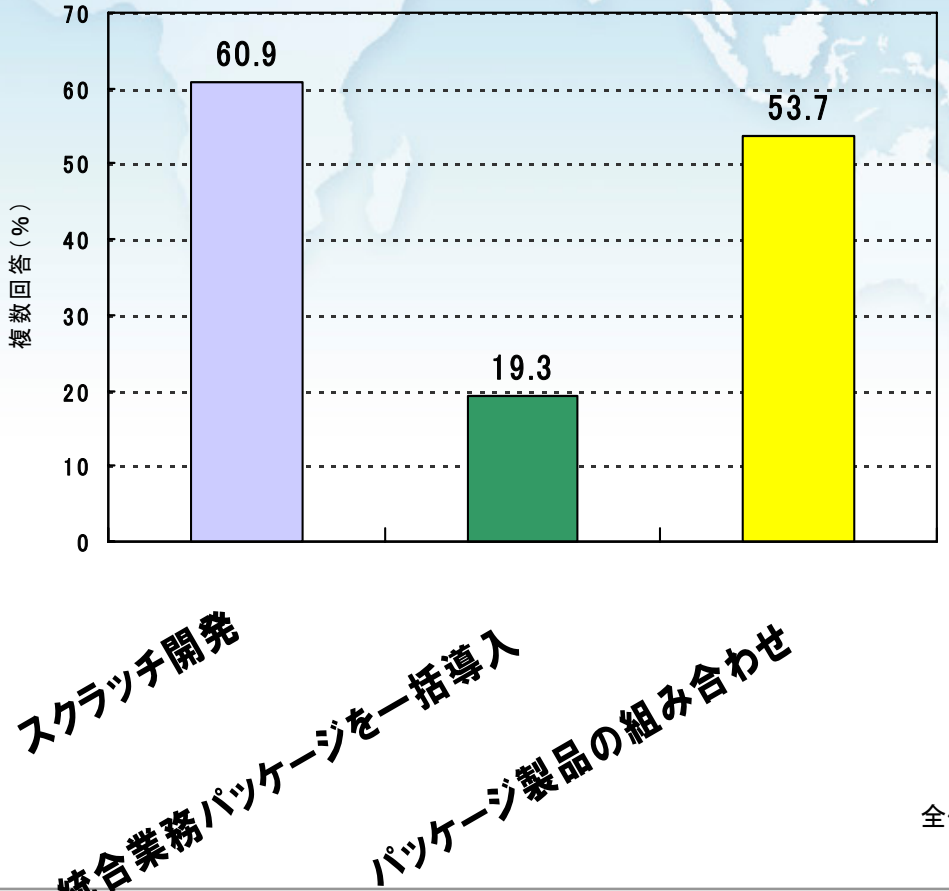
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

業務アプリケーションの構築形態

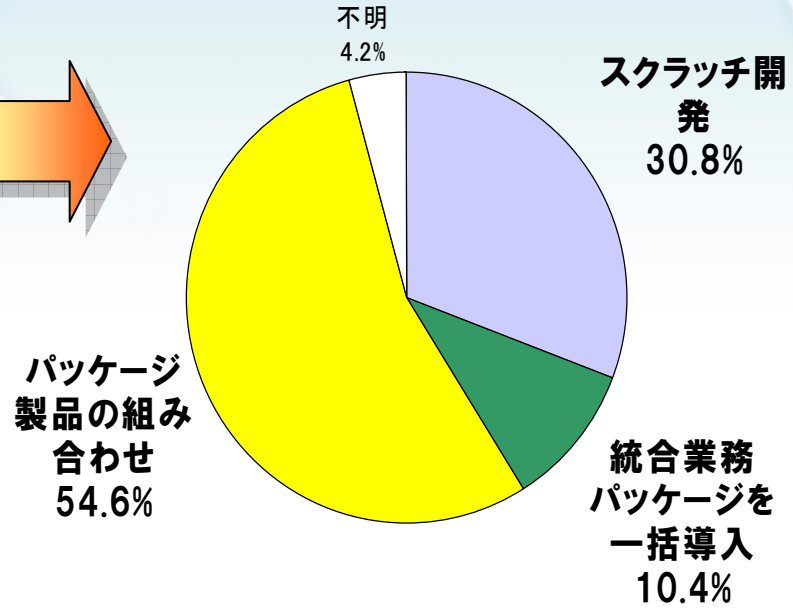
MIJS

- 現在はスクラッチ開発の採用率が、全体の61%に上っています。一方今後主流になる構築形態では、最適なパッケージ製品を組み合わせる“ Best of Breed ”型パッケージ連携の支持率が、過半数を占めました。

•あなたがかかわる情報システムの業務アプリケーション構築形態にあてはまるものを、いくつでもお選びください。



•今後あなたの関わるシステムで主流になると思われる業務アプリケーションの構築形態を、ひとつだけお選びください。



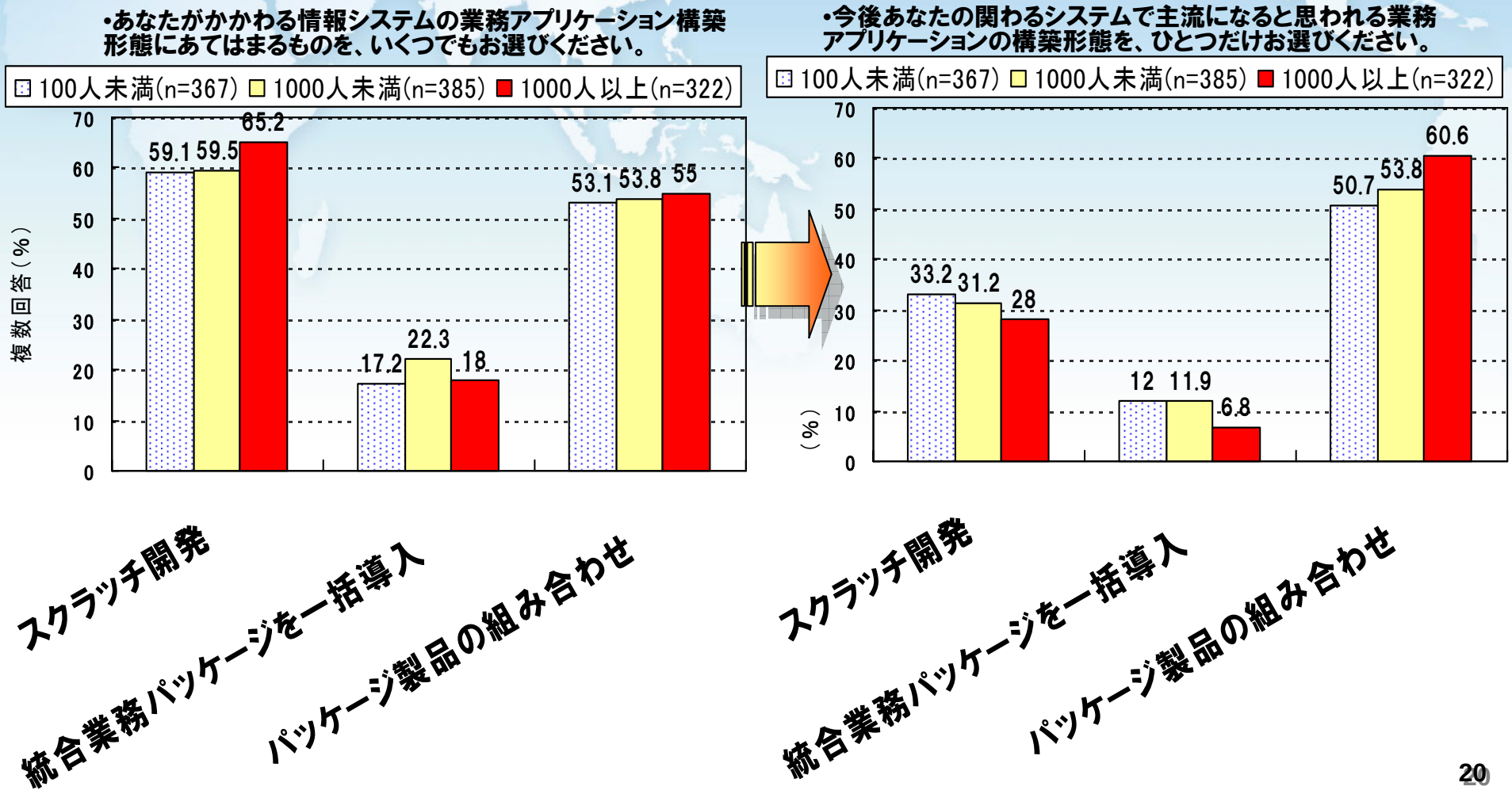
全体(N=1078)

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

業務アプリケーションの構築形態（規模別）

MIJS

- 大企業層は、現在“スクラッチ開発”採用率が高い反面、今後はもっとも“ Best of Breed ”型パッケージ連携を支持しています。



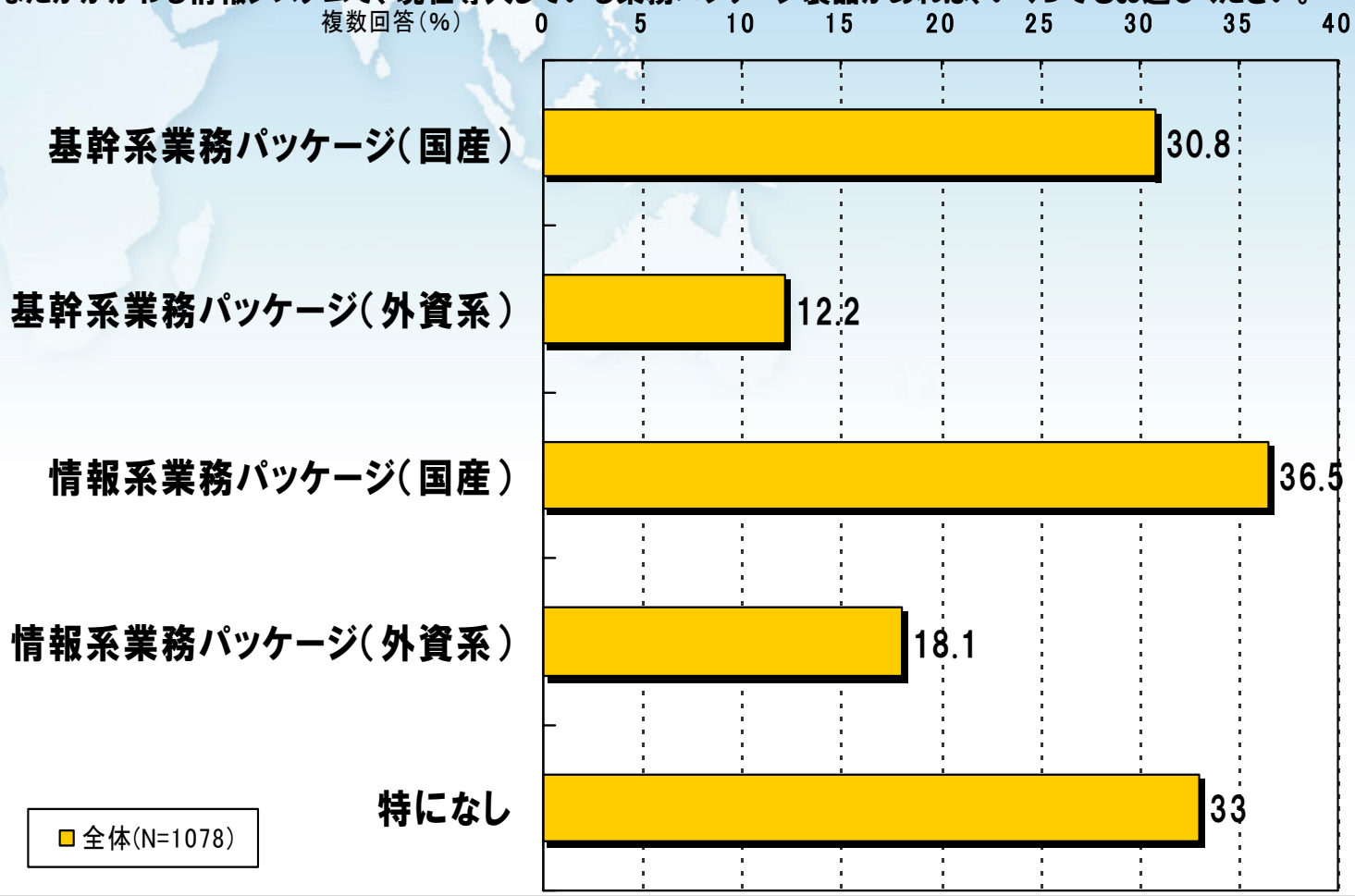
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

業務パッケージ製品の導入状況

MIJS

■ 「情報系業務パッケージ（国産製品）」および「基幹系業務パッケージ（国産製品）」の導入率が、それぞれ3割を上回っています。

•あなたがかかわる情報システムで、現在導入している業務パッケージ製品があれば、いくつでもお選びください。



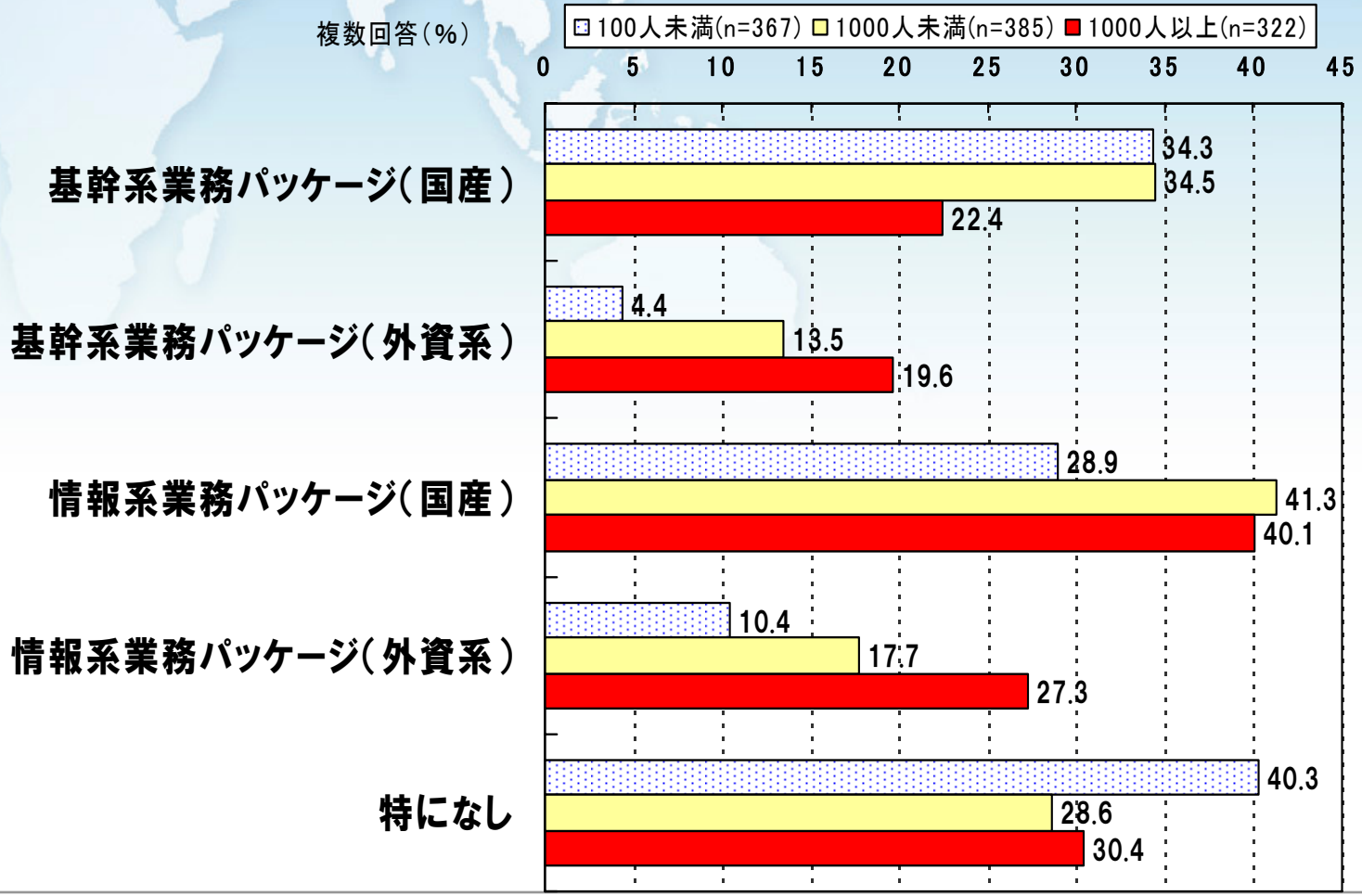
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

業務パッケージ製品の導入状況(規模別)

MIJS

■ ユーザー規模が大きくなるほど、外資系製品導入率が高い様子が分ります。

•あなたがかかわる情報システムで、現在導入している業務パッケージ製品があれば、いくつでもお選びください。



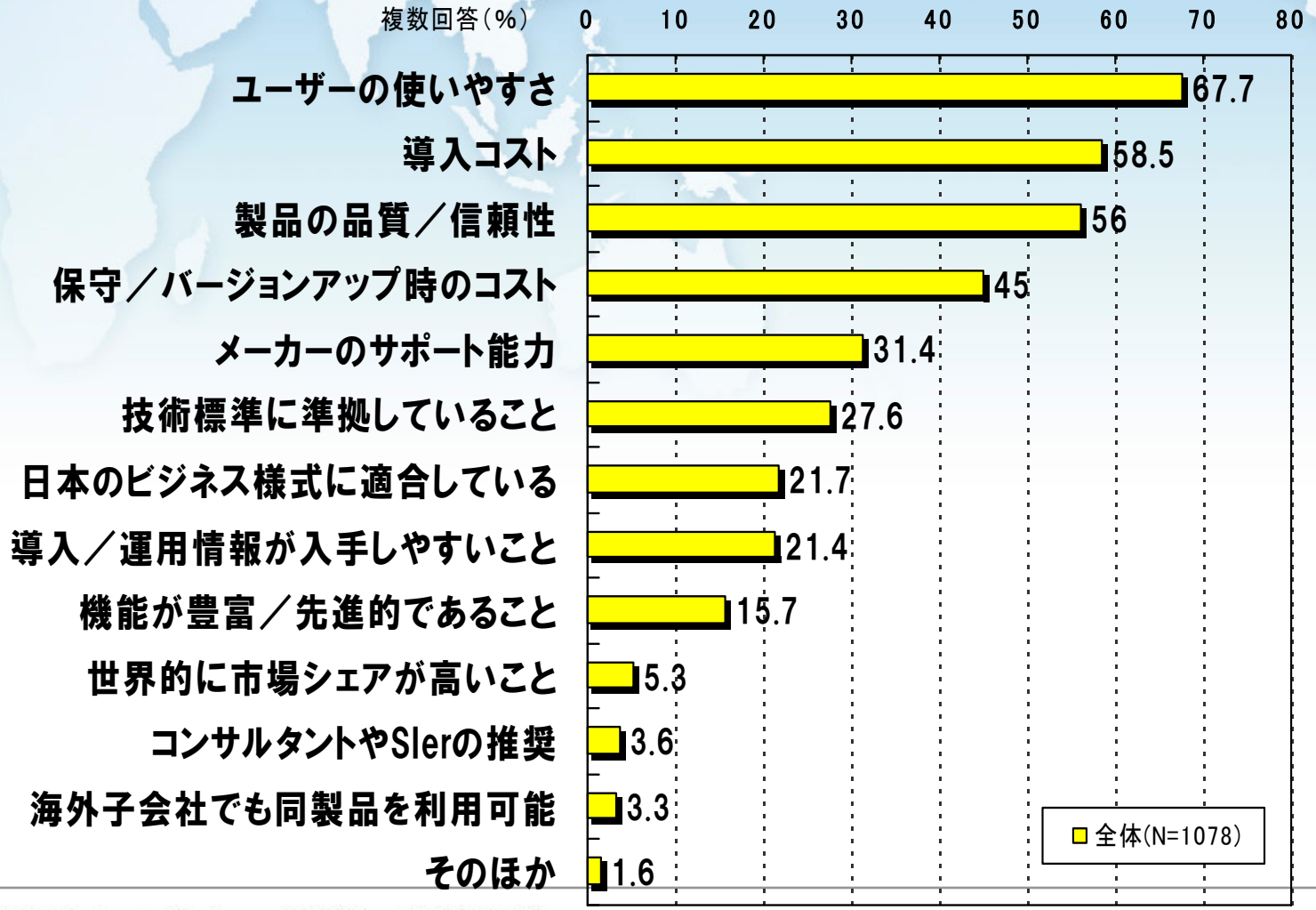
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

業務パッケージ製品選択時の重視点

MIJS

- 重視要素Top3は「ユーザーの使いやすさ／必要な機能を使いこなせること」、「導入コスト」および「製品の品質／信頼性」です。

•今後の業務アプリケーション構築でパッケージ製品を選択／導入する際、あなたが重視する項目を、3つまでお選びください。



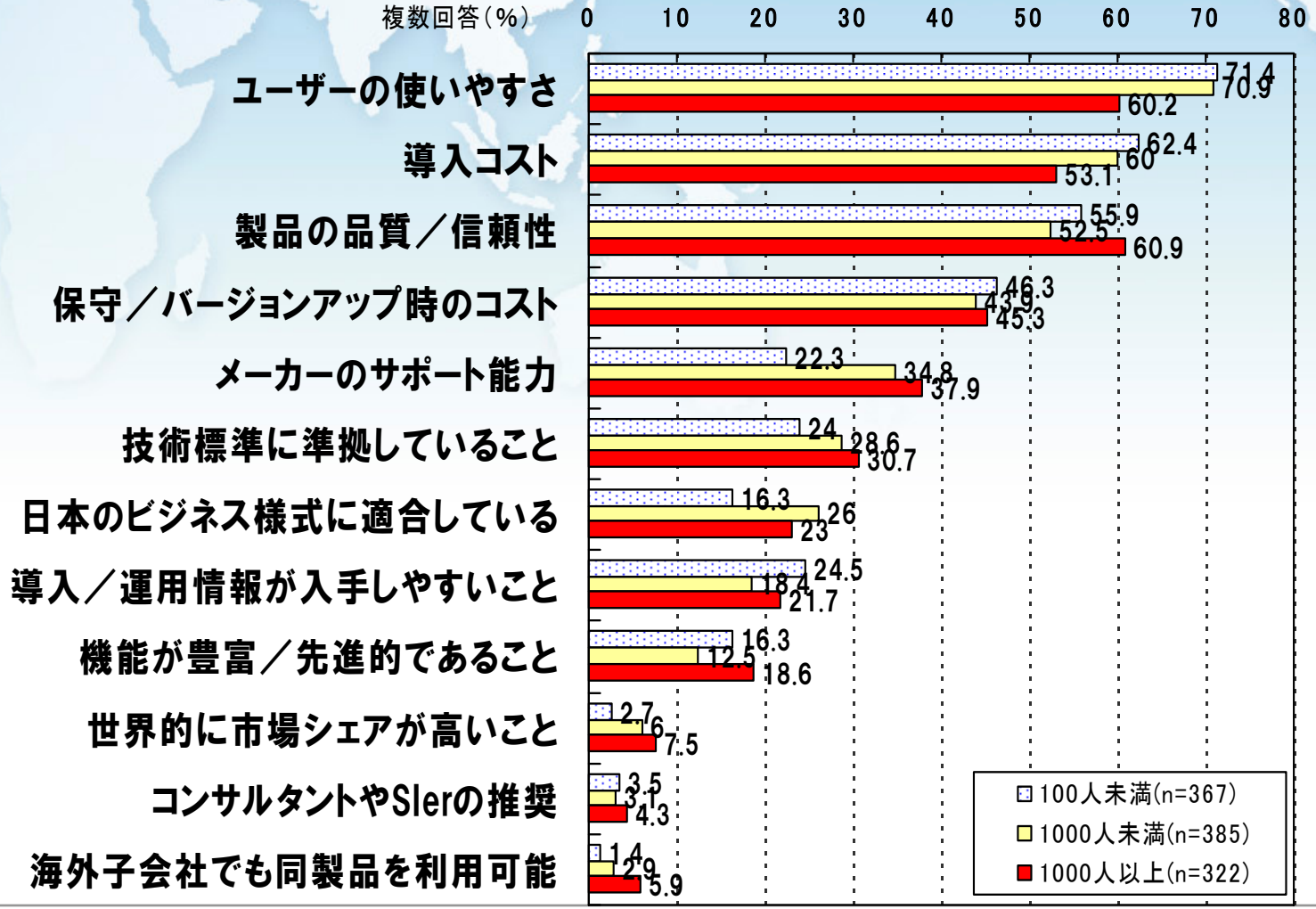
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

業務パッケージ製品選択時の重視点（規模別）

MIJS

■ 大企業では品質/信頼性の重視度が、導入コストを上回っています。

•今後の業務アプリケーション構築でパッケージ製品を選択／導入する際、あなたが重視する項目を、3つまでお選びください。



Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

業務パッケージ製品選択時の重視点(「その他」のコメント)

MIJS

- **コメント:業種:システムに関わる立場:ユーザー規模**
- カスタマイズが自由なこと:製造業:自社情シス:500人未満
- カスタマイズの容易性:製造業:自社情シス:1000人未満
- カスタマイズ性と業務改善への追随性:製造業:エンドユーザ:1万人以上
- サポート体制がしっかりしていること:その他IT系:自社情シス:5000人未満
- セキュリティ:通信:顧客システム実務:1000人未満
- 英語版があること:IT系SW製造:導入決定/決裁:500人未満
- 拡張性や柔軟性:製造業:自社情シス:5000人未満
- 機能がいたずらに複雑／高機能でないこと。:SI/開発業:顧客システム実務:500人未満
- 技術者の言いなりにならない:その他:エンドユーザ:500人未満
- 業務要件を満たすこと。どんなに品質が高く使い易くても業務が回らなければ話にならない。:SI/開発業:顧客システム実務:1万人未満
- 自社のビジネス様式(業務フローや帳票書式など)に適合していること:SI/開発業:自社情シス:1000人未満
- 柔軟性:製造業:自社情シス:5000人未満
- 製品の可用性:製造業:顧客システム実務:1000人未満
- 長期にわたって力のあるメーカーかどうか。情報が豊富かどうか。:ITコンサル:顧客システム実務:500人未満
- 長期的(10年以上)なサポート体制:SI/開発業:コンサル/提案:100人未満
- 動作の軽快さ:IT系HW製造:自社情シス:500人未満
- 豊富な導入事例。:金融:顧客システム実務:500人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携の現状と課題

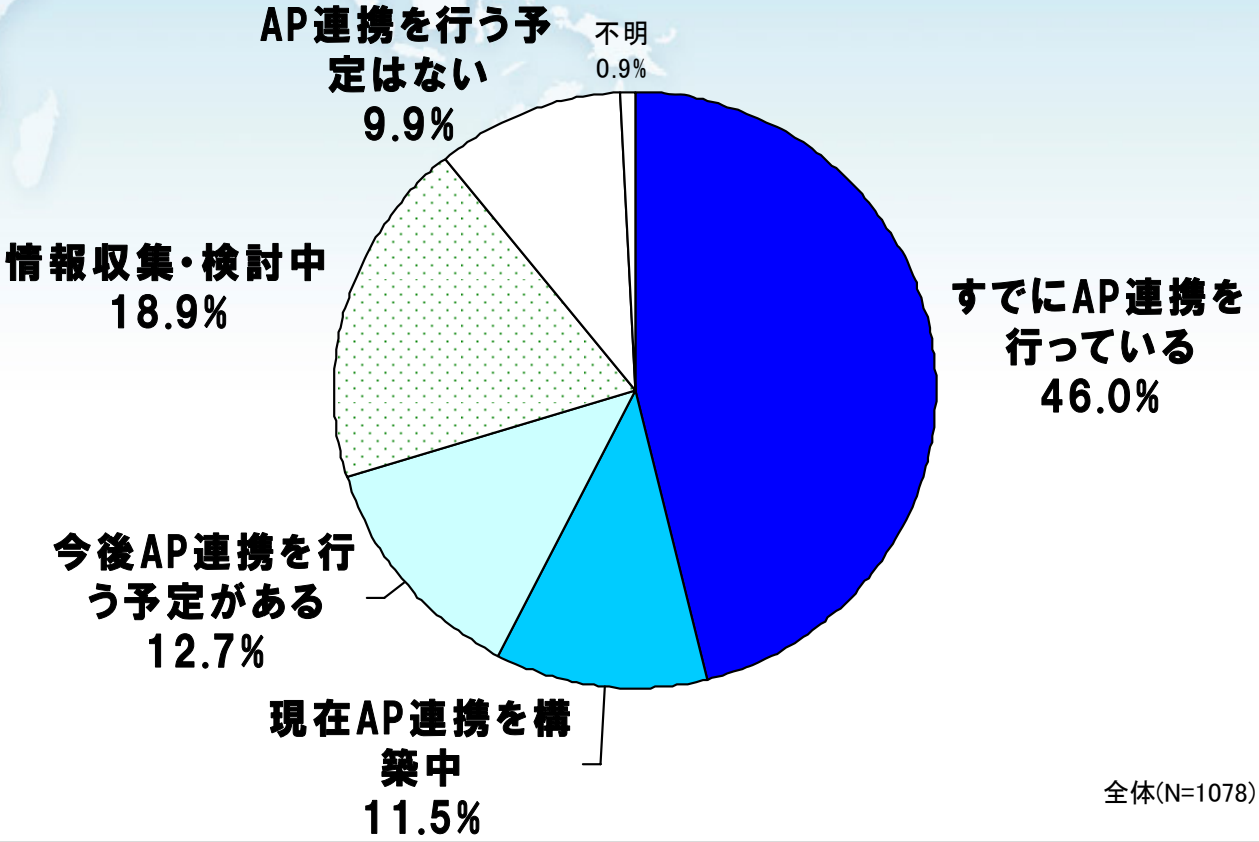
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携の実施状況

MIJS

- 全体の70%が、アプリケーション連携を「すでに行っている」または「現在構築中」「今後予定がある」と答えています。

•あなたのかかわる情報システムでは、複数の業務アプリケーション間で連携を行っていますか？
（例：自動仕訳処理による販売管理アプリと財務管理アプリの連携など）



全体(N=1078)

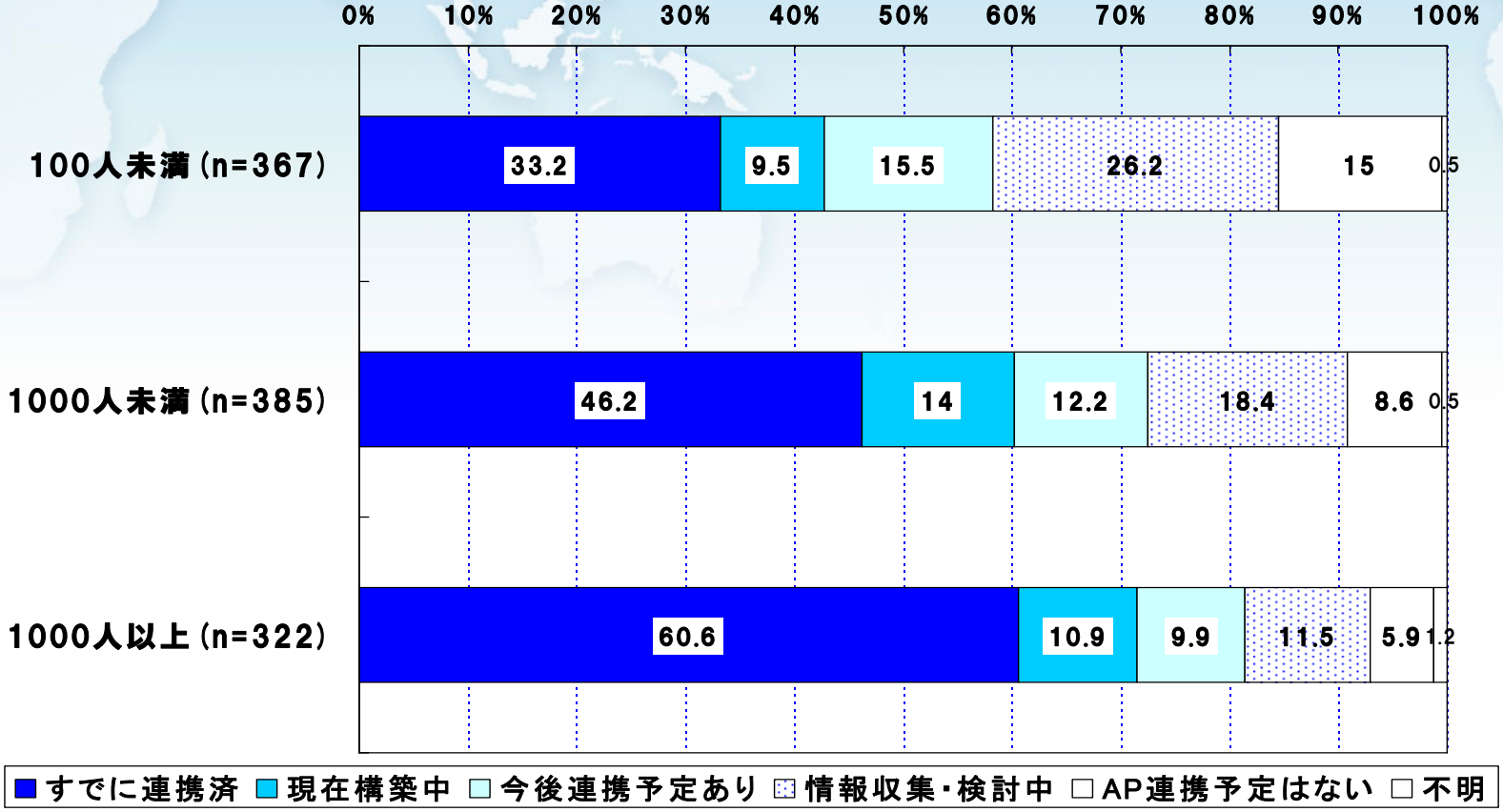
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携の実施状況（規模別）

MIJS

■ 大企業の6割が、すでにアプリケーション連携を実施しています。

•あなたのかかわる情報システムでは、複数の業務アプリケーション間で連携を行っていますか？
（例：自動仕訳処理による販売管理アプリと財務管理アプリの連携など）



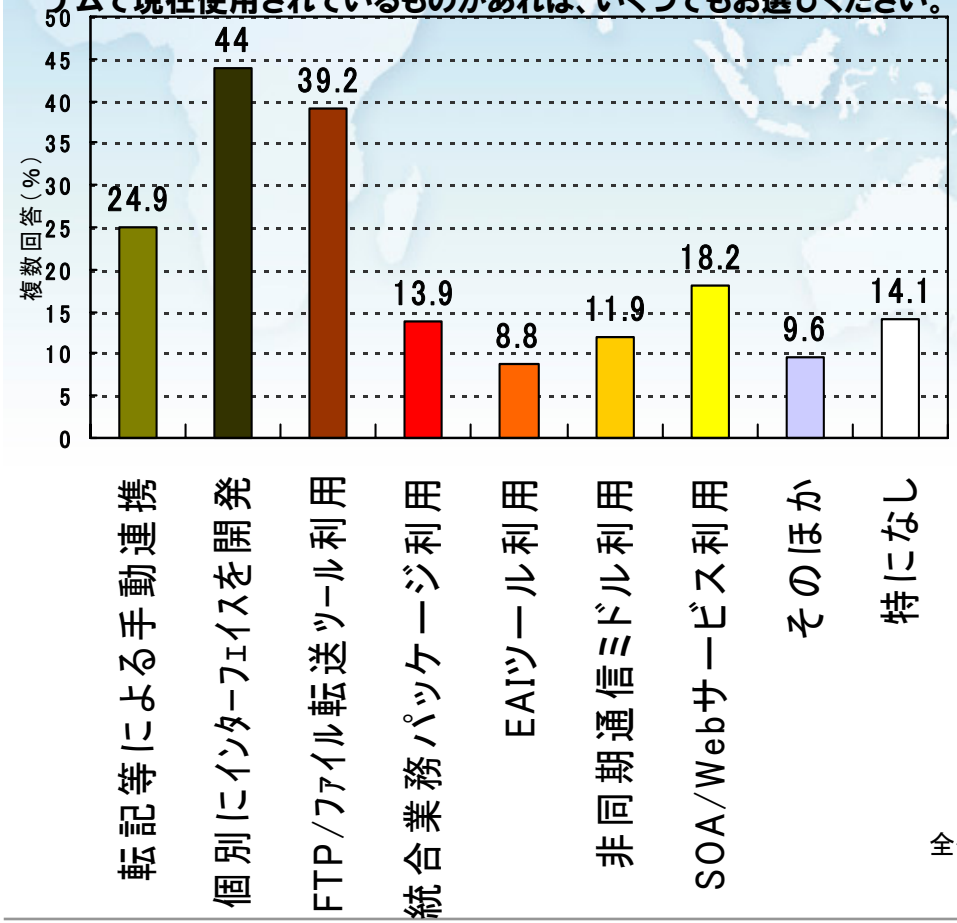
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携手法の採用状況

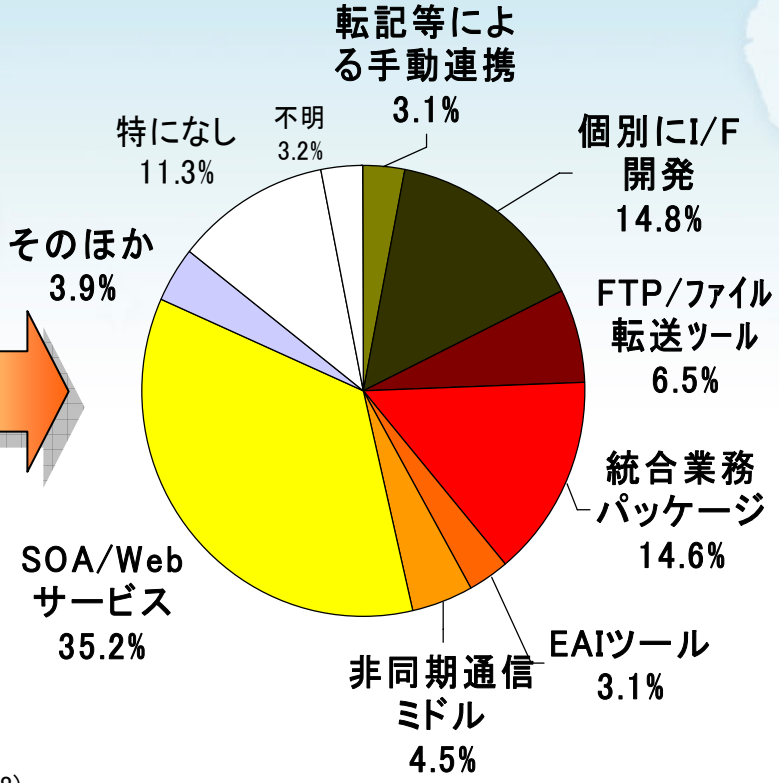
MIJS

- 現在は個別アプリケーションごとにインターフェイスを開発したり、FTP／ファイル転送ツールを利用した連携が主流です。一方今後主流になると思われる連携手法では、「SOA／（XML）Webサービス」がトップに挙げられました。

•アプリケーション連携を実現する手法として、あなたのかかわるシステムで現在使用されているものがあれば、いくつでもお選びください。



•今後あなたの関わるシステムで主流になると思われるアプリケーション連携手法を、ひとつだけお選びください。

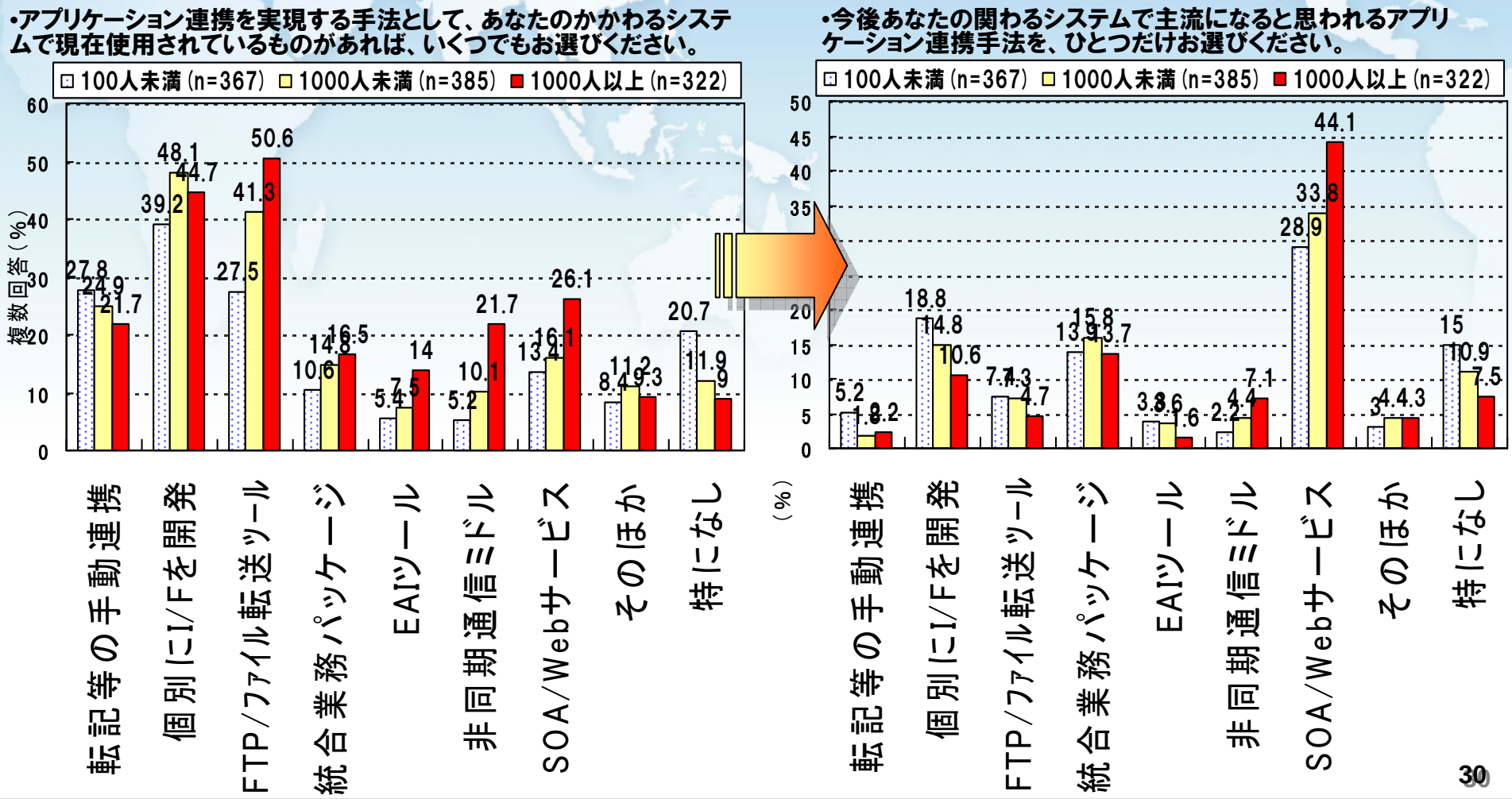


全体(N=1078)

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携手法の採用状況（規模別）MIJS

- 大企業では51%が現在FTP／ファイル転送ツールを利用していますが、今後は「SOA／（XML）Webサービス」支持率が突出して高くなっています。



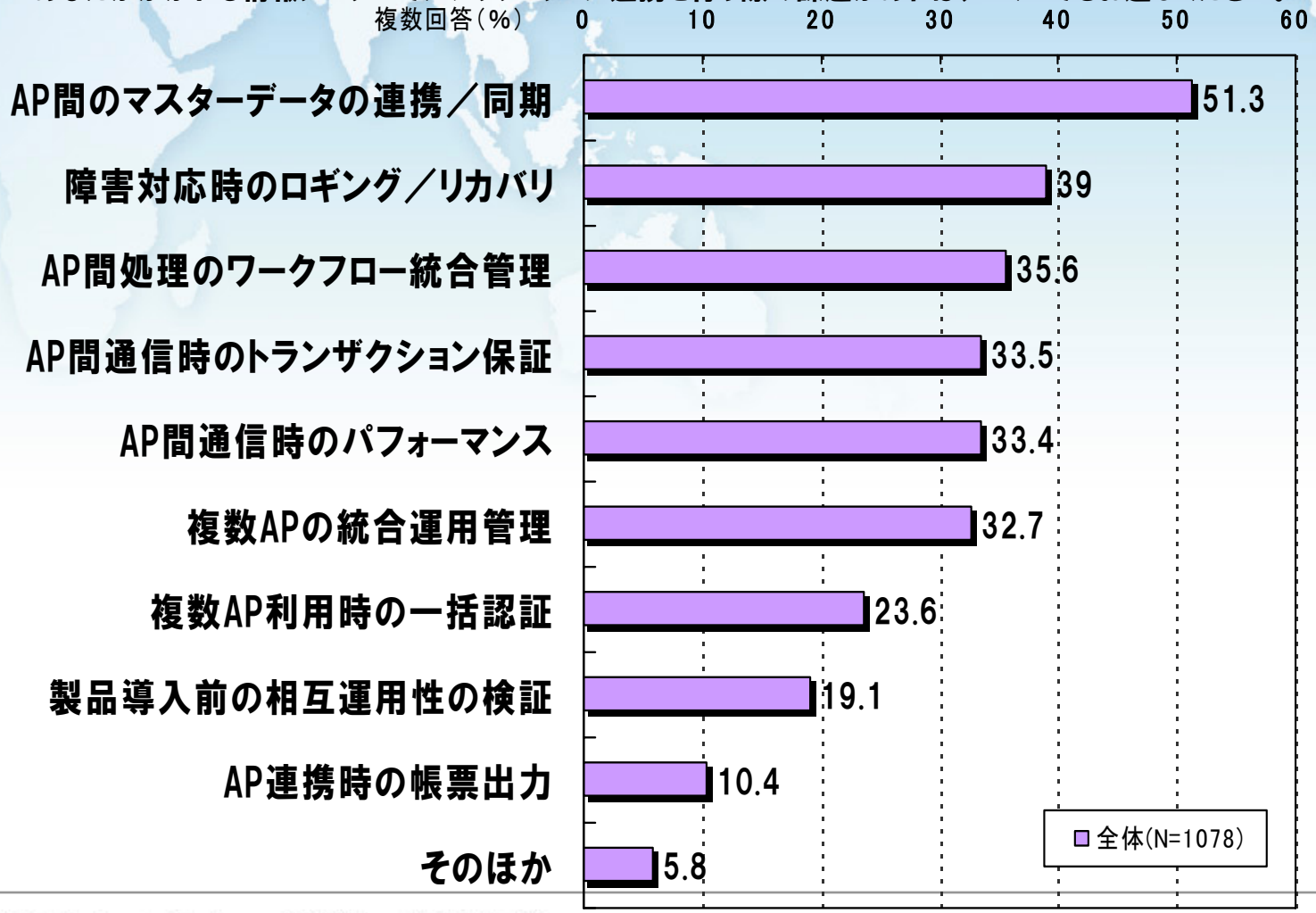
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携の課題

MIJS

- 全体の5割以上が「複数アプリケーション間のマスターデータの連携／同期」への課題意識を表しています。

•あなたがかかわる情報システムでアプリケーション連携を行う際の課題があれば、いくつでもお選びください。



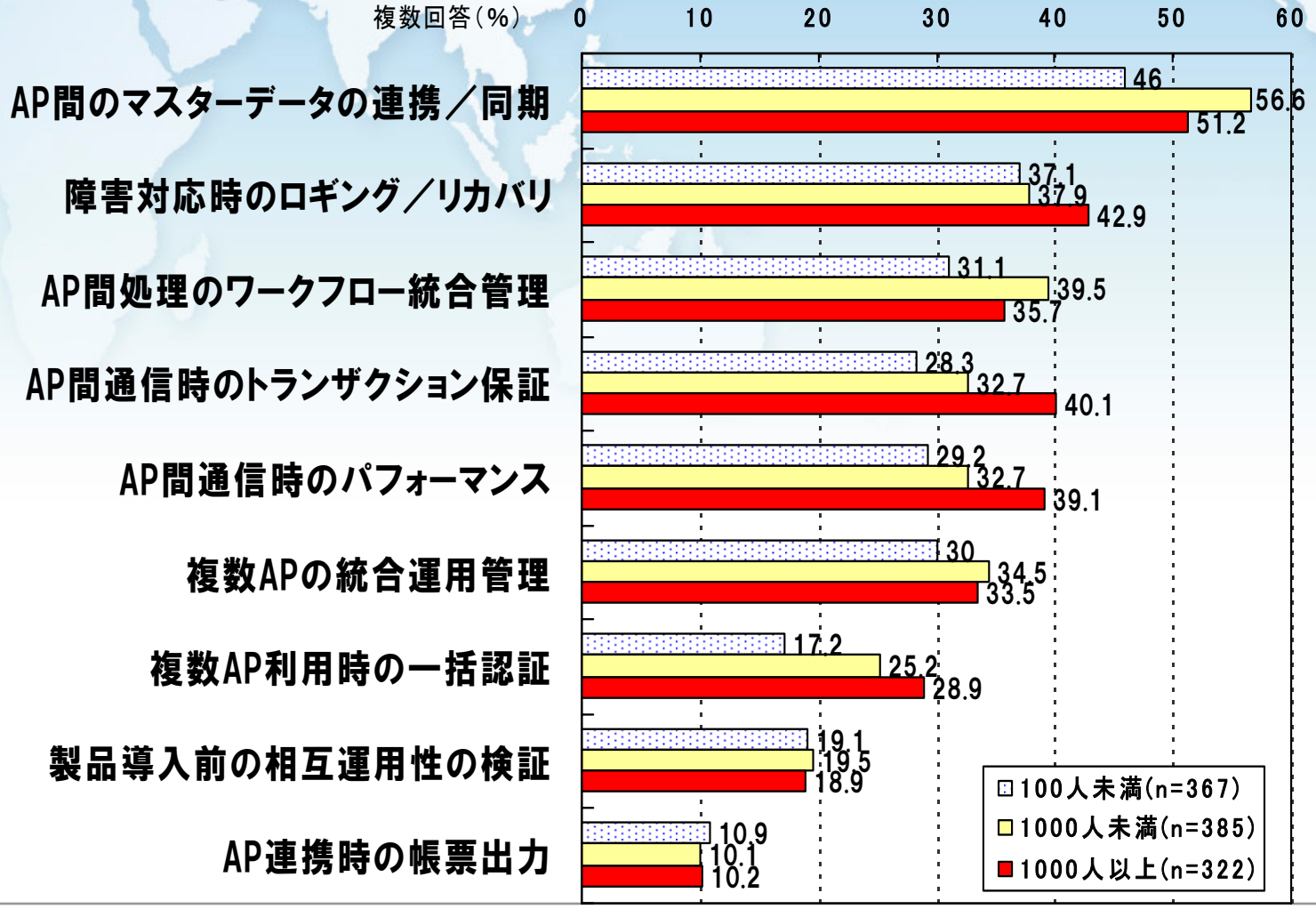
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携の課題（規模別）

MIJS

■ 大企業ではトランザクションやパフォーマンスへの課題意識が高くなっています。

・あなたがかかわる情報システムでアプリケーション連携を行う際の課題があれば、いくつでもお選びください。



Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携の問題点や知りたい情報（自由回答サマリー）

MIJS

AP連携モチベーション向上のために、必要な情報とは？

SOAの現実性に疑問

- 2年ほど前からSOA技術が注目されているが、現実に導入し成功した話をあまり聞かない。
- SOAはどこまで本当に浸透しているのか。SOAもSaaSもAP連携もあるのは難しい
- SOAは概念先行で技術が追いついていない。
- SOAもSaaSも、EAIの焼き直しにしか見えない。本質的に何が変わったか、説明すべき
- AP連携でコストは抑えられるが、SQLなど密結合の方が柔軟性にとんだ構築ができる
- 既存システムと連携しながら新しい物を継ぎ足していくと、保守困難になってしまう

事例情報の提供

- さまざまな業務システムを個別に開発していった企業の連携の導入事例及び苦労談
- マスタ連携における先進技術の導入事例
- 導入実績や組み合わせのパターンについて知りたい。
- 米国の先進的Userの事例情報
- アプリケーション連携に関する事例やノウハウを詳しく知りたい。
- アプリケーション連携の導入実績の統計とメリット・デメリット

技術情報の提供

- 必要な製品情報が得にくい、カタログ情報ではない情報が欲しい
- Hubサーバとマスタアプリケーションサーバがどうやって連携できるか具体的に知りたい
- トランザクション処理とロギング、リカバリの一般的な方法
- 営業資料ばかりで技術資料が少ない。要件を満たせるのか、詳細/具体的な情報を充実さ
- 情報不足。各アプリを横断した情報が入手できない。
- AP連携は基幹システム構築で必須。ツールで補うかアーキテクチャで対応するかが悩まし
- 非同期通信メッセージ管理のモデルが良く分からない。
- 連携タイミングをリアルタイム処理するか、バッチ処理するか。
- 同一LAN上にないサーバ間のAP連携が、ネットワーク依存せずシームレスに可能か否か

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

アプリケーション連携の問題点や知りたい情報（自由回答サマリー）

MIJS

AP連携が困難な現実に向けた、コンソーシアムの役割とは？

AP連携の困難さ

- 実際は手入力のI/Fと連携のI/Fを両方開発する必要があり、開発コストが増えてしまう
- カタログで簡単に繋がると謳っても、実装段階でトラブルが発生し、簡単には繋がらない
- データ形式が統一されていない為、コンバートに時間が掛かる
- 業務AP間で扱うデータが異なり、連携時にそれぞれのデータ変換が伴う。
- 個別最適されてきた背景から起こるセマンティクスの不統一
- 情報漏洩の多発でセキュリティ設定を強化し、非常に連係しづらくなってきている
- AP連携はERPで行うか、スクラッチ開発するしか最終的に方法がないのではなかろうか
- ファイル転送以上に簡単でメリットのある連携方式が必要。

アプリケーション連携を行うにあたりもう少し作業工数を抑えることができないか。

標準化／仕様公開への期待

- パッケージ間データ連携が難しく、連動が困難。メーカ間で基準などがあれば一番いい。
- なかなか中を公開してくれなく連携がスムーズに行かない部分もある。
- パッケージ製品のベンダーを超えた連携性、相互接続性の向上
- 既存技術標準との整合性、インタフェースの公開（GUI画面の自動操作含む）
- 官公庁・自治体が推奨する標準フォーマットの利便性が低い。
- 技術的な課題よりも、ベンダー間での意識のすり合わせが重要で大変です。
- 技術標準に準拠していると謳っている製品同士でも、容易に連携できないケースがある
- 各社仕様の公開が不完全で、イレギュラーな処理時の対応に苦慮する場合がある

様々なシステムを連携しなければならない昨今，独自規格の機能を作りこむことは罪悪

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント:業種:システム関与立場:ユーザー数**
- 1.導入コストの問題　2.OSの進化によるアプリケーションの旧式化:その他IT系:導入決定/決裁:10人未満
- 各ベンダーの責任分界点:教育:自社情シス:500人未満
- 2年ほど前からSOAに関する技術が注目されているが、現実に業務アプリケーションとして導入し、成功したという話をあまり聞かない。:SI/開発業:顧客システム実務:1000人未満
- BPRに際して、例えばERP関係の社内プロセス等は、もっと標準化されてしかるべきだと思った。問題なのはアプリケーションではなくて、業務プロセス。:SI/開発業:コンサル/提案:100人未満
- C/S環境からWeb環境への変化の中でのセキュリティの確保。ことに、無線LAN環境が、システム環境に入った場合の対処。:SI/開発業:顧客システム実務:5000人未満
- EAIがハブとなり, Web Servicesなどで I/F ることが信頼性を考えると望ましいが、高価すぎる:製造業:情シス:1000人未満
- ERPパッケージの仕様理解:SI/開発業:顧客システム実務:500人未満
- ERP海外製品の日本での実績、適用の範囲・内容などの情報:製造業:自社情シス:1000人未満
- Hubサーバとマスタ・アプリケーションサーバがどうやって連携できるか具体的に知りたい:製造業:情シス:5000人未満
- IBMの大型汎用機、及びそれに関わるサブシステムについて何でも:SI/開発業:顧客システム実務:5000人未満
- IDのライフサイクル管理製品／連携方法に関するトレンド:SI/開発業:顧客システム実務:5000人未満
- J-SOX・内部統制に適応できる連携:製造業:自社情シス:500人未満
- LANSAについての開発事例詳細や、サンプルソースなどがもっと豊富に欲しい。:製造業:自社情シス:5000人未満
- OSの変更によるアプリケーションの継続性。:サービス業:エンドユーザ:100人未満
- SaaSの現状:SI/開発業:顧客システム実務:1000人未満
- SOAはどこまで本当に浸透しているのか。またしようとしているのか。SOAもSaaSあり、アプリケーション連携もあるのはなかなか難しいと思う。:SI/開発業:顧客システム実務:1000人未満
- SOAは概念先行で技術が追いついていない。:SI/開発業:コンサル/提案:1万人以上
- SOAもSaaSも、結局のところはEAIの焼き直しにしか見えない。本質的に何が変わったか、各ベンダは説明するべき。それが出来ない以上、積極的な導入に踏み切ろうとは思わない。:SI/開発業:自社情シス:500人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント:業種:システム関与立場:ユーザー数**
- SOAを実現するためのツールの見極め。特に基幹系とのつなぎ部分に興味がある。:金融:自社情シス:5000人未満
- SOA導入の適正期:製造業:自社情シス:1万人以上
- UI仕様が製造元独自開発のものが多く、標準仕様が策定されていない。:製造業:導入決定/決裁:500人未満
- WEBサービスなどの標準技術の広め方:SI/開発業:顧客システム実務:1000人未満
- Webサービスは、現状DMZからのアクセス等顧客のセキュリティポリシークリアの手段として、その本質とは違う利用をしている。:SI/開発業:顧客システム実務:1万人未満
- XMLが予想以上に不便:その他IT系:自社情シス:500人未満
- XML利用の連携を模索中:SI/開発業:顧客システム実務:500人未満
- アップデート時の各PCへのプログラム配信。:ITコンサル:顧客システム実務:50人未満
- アプリケーションがグループ内の複数企業に渡る場合など、情報漏洩が多発していることから、連係する際にセキュリティがらみの設定を強化していて、非常に連係がしづらくなってきている:SI/開発業:顧客システム実務:500人未満
- アプリケーションというよりはサーバ間のデータ連携に付いてであるが、同一LAN上にないサーバ間(東京－大阪間)に対してのアプリケーション連携がネットワークに依存せず、かつシームレスに連携可能であるか否かが知りたい。:SI/開発業:顧客システム実務:1000人未満
- アプリケーション開発はあまり進歩していないのが現状だと思います。今後はWebサービスやSOAをもっと普及させるべきだと思います。:SI/開発業:顧客システム実務:1万人以上
- アプリケーション間のデータの互換性、ソフト更新時の互換性の維持、データ入力用PCの長期サポート体制:製造業:エンドユーザ:50人未満
- アプリケーション間の連携がいかに取れるか。片方が障害時に、もう片方がどれだけ影響を受けずに済むか。:金融:顧客システム実務:500人未満
- アプリケーション間通信時のトランザクションの保証:製造業:顧客システム実務:1000人未満
- アプリケーション製品では正常処理でもうまく出来ていないことがあり、問題があとで発覚する:SI:コンサル/提案:100人未満
- アプリケーション導入について、平易な説明では物足りなく、詳細をみても理解しづらい部分があり結局導入を検討するだけにとどまっている。:SI/開発業:顧客システム実務:100人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- アプリケーション毎に保守担当者が別れている場合、連携しているシステムの片側で改修や障害があった場合に、連携したテストや問題判別などをする際に、保守担当者間の連携が難しい：SI/開発業：顧客システム実務：5000人未満
- アプリケーション連携でレガシー活用では、保守や導入コストは低く抑えられるが、やはりSQLなどの蜜結合のほうが遥かに柔軟性にとんだ構築ができると感じる。：SI/開発業：顧客システム実務：50人未満
- アプリケーション連携で密結合してしまうと、片側のバージョンアップや、製品差替えで苦労する：SI：自社情シス：5000人未満
- アプリケーション連携については、机上の検討では分からず、つないでみないと分からないのが現状なので、その分、お客様にも負担を強いてしまうという問題がある。：その他IT系：コンサル/提案：1万人未満
- アプリケーション連携に関する事例やノウハウを詳しく知りたい。：SI/開発業：顧客システム実務：500人未満
- アプリケーション連携の導入実績の統計とメリット・デメリット：ITコンサル：顧客システム実務：1万人以上
- アプリケーション連携は、多種多様というのが現状です。そこは技術的になんとか補えるのですが、業務ごとにユーザが違い、そことの統制がいつまでもとれない。ユーザシステム部門が入っても改善されない。そういう問題を是非解消させたい。できればそういう問題を技術的なアプローチで解消させたいと切に願っております：SI：顧客システム：1万人以上
- アプリケーション連携は、同一ベンダーのERPで全ての業務を行ってしまうか、スクラッチ開発で独自に開発するしか最終的には現在のところ方法がないのではなかろうか。：製造業：自社情シス：500人未満
- アプリケーション連携をするのは、データの転記／再入力などによる手動連携をなくす為と思っているが、実際には手入力のインターフェイスと連携のインターフェイスを両方、開発する必要がある。ある程度は共通化できるが、完全には共通化できないので開発コストが増えてしまう。：SI/開発業：コンサル/提案：500人未満
- アプリケーション連携を行うにあたり、もう少し作業工数を抑えることができないか：SI：顧客システム実務：100人未満
- アプリケーション連携時の性能問題、排他処理の保証について。：SI/開発業：顧客システム実務：5000人未満
- いくら業務に必要と言っても、上方で稟議が通らない。：その他：エンドユーザ：100人未満
- インターフェースの違うシステムを高い精度で連携させていくこと：製造業：自社情シス：1000人未満
- インターフェース部分を設計できる技術者の不足：SI/開発業：顧客システム実務：100人未満
- エンド・ユーザーが変化を嫌う：製造業：自社情シス：1000人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- エンドユーザーが抵抗なく導入できる平易なパッケージが少ない。：教育：自社情シス：50人未満
- エンドユーザがアプリ連携を軽視している（現状の業務スタイルを変えたくないと考える人が多い）：製造業：エンドユーザ：5000人未満
- エンドユーザとの仕様の合意が違いすぎる変動する業務の場合、開発から導入時で運用が異なり仕様変更が頻繁に行われる：SI/開発業：顧客システム実務：50人未満
- オープン環境やERPパッケージ導入にあたり、レガシーシステムとのデータ連携をどのように実現していくか：SI：自社情シス：1000人未満
- オープン系システムに関しては、アプリケーション連携がとりやすいが、クローズドシステムがネックとなっています。：SI：コンサル/提案：100人未満
- カスタマイズした際のバージョンアップが課題：ITコンサル：コンサル/提案：5000人未満
- カスタマイズの容易さについて、メーカーとユーザー側で考えている幅や深さが常に異なる点：SI：システム実務：5000人未満
- カタログスペックだけの使えない無駄なアプリケーションを導入するのをやめてほしい：その他IT：情シス：1000人未満
- カタログで簡単に繋がると謳っていても、実装段階ではトラブルが発生して、簡単には繋がらない：製造業：自社情シス：5000人未満
- グループウェアに関してですが、Emailとして外部に送るのに変換が必要だったり、複数システムではユーザ管理の一元化が困難だったりしています(WindowsだけならActive Directoryとかになるんですが)。要するに、連携はほとんど使う側に委ねられています。また、エンタープライズレベルでは、SOAとはいいつつも、通信においてはXML-RPC/SOAPに始まり、いろいろプロトコルはありますが、どれも低レベル層のものばかりで、業務に沿ったエラーの検査、業種特有ですが業界では一般的なチェックなどは、すべてアプリケーションの責任になってしまいます。こうした要件の解決に有益な情報、具体的な製品や実績などを知りたいところです。帳票は諦めてます(笑)。日本独特ですからね。：SI/開発業：顧客システム実務：500人未満
- コストがかかりすぎる。ソフトウエアUGに伴うコストがかさむのが難点：サービス業：導入決定/決裁：10人未満
- コストがたかい、制限が多い。：IT系SW製造：自社情シス：50人未満
- コストが高い為、導入に躊躇する。：製造業：自社情シス：5000人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- コスト高になりすぎる点。：SI/開発業：顧客システム実務：1万人以上
- コスト削減の数値的な評価が難しい、各アプリケーションのデータへの依存度が把握しづらい、コストが掛けられない。：教育：導入決定/決裁：50人未満
- さまざまなパッケージ間でのデータ連携が難しく、連動させるのが困難である。パッケージメーカの相互間で、基準などがあれば一番いいのでは。ユーザーの要望を最大限に引き出せる個別開発においても、データの相互連携が必要だが、現状無理な状態。：商社/流通：コンサル/提案：50人未満
- さまざまな業務システムを個別に開発していった企業の連携の導入事例及び苦労談：IT商社：コンサル：1万人以上
- シェアが高いからや、（使わないのに）機能が豊富だからという安易な考えで導入するユーザーがまだまだ多い：IT系商社：コンサル：500人未満
- システム内容にもよりますが、障害発生時の対処方法（リカバリ）が、ある程度システムで自動的または簡易な操作で行える機能があればよいと思います。：SI/開発業：顧客システム実務：5000人未満
- シングルサインオンとユーザ管理：教育：自社情シス：5000人未満
- セキュリティなど商品の信頼性：通信：エンドユーザ：1万人未満
- セキュリティやトランザクションの確保が急務となりつつある。信頼性は維持しつつ、いかに負担にならずセキュアなシステムを構築し、且つ高可用性を確保するかが課題。：SI/開発業：自社情シス：1万人未満
- セマンティックWebの実用性：SI/開発業：コンサル/提案：5000人未満
- ソフトウエア製品の進化が激しすぎて、どれが適当なのか顧客が自社のニーズを把握していないと選定できない：SI：顧客システム実務：1000人未満
- データベースサーバーの負荷が高くなること：その他：自社情シス：5000人未満
- データ形式が統一されていない為、コンバートに時間が掛かる：IT系SW製造：顧客システム実務：5000人未満
- データ定義、ユーザインタフェースなどがユーザサイドで簡単にカスタマイズできる（丁度Visual StudioなどのIDEにおける画面デザイナなどのように）半製品が望まれる。：教育：導入決定/決裁：50人未満
- トランザクション処理とロギング、リカバリの一般的な方法：IT系HW製造：自社情シス：500人未満
- なかなか中を公開してくれなく連携がスムーズに行かない部分もある。：SI/開発業：顧客システム実務：50人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- なんでも知りたいので新鮮な情報を期待します。とくに失敗事例に学びたいと思います。みな語りたがりませんが。他社が設計時に最悪の事態をどのくらい予想し、またどのように切り抜け改善につなげたのかという点を参考にしたいです。：ITコンサル：コンサル：100人未満
- バージョンアップ費用を最小限にするアプリケーション製品構成について、顧客へ提案したい：SI：顧客システム：5000人未満
- バージョンの違いによる動作の差異など：IT系SW製造：顧客システム実務：500人未満
- ハードウェア構成を先決しすぎるため、人的コストがかかりすぎる。テンプレートベースの業務アプリケーション構築よりも、コントローラ・フレームワークベースの業務アプリケーション構築手段の一般化が進みづらい：SI：顧客システム：100人未満
- バグやアップデータ等のサポート体制：官公庁/公共：エンドユーザ：5000人未満
- パッケージの機能が豊富すぎて、全てを把握できない。：IT系SW製造：顧客システム実務：50人未満
- パッケージ製品のベンダーを超えた連携性、相互接続性の向上：製造業：自社情シス：1万人以上
- ファイルメタ情報の連携のいい方法を思案中：IT系SW製造：顧客システム実務：1万人未満
- ファイル転送以上に簡単でメリットのある連携方式が必要。：SI/開発業：顧客システム実務：1000人未満
- プログラマのスキル不足、資金不足。会社の理解不足。：医療：自社情シス：50人未満
- ヘルプの参照時にヘルプの説明がわかりづらいものが多いと感じる。：SI/開発業：自社情シス：50人未満
- ベンダー製品の導入はベンダーがやることがあり、全体最適を図り難い。障害時の問題の切り分け、責任の所在が不明確。：IT系SW製造：顧客システム実務：100人未満
- ベンダー独自の規格は徐々に無くなっていくのだと思う：IT系SW製造：導入決定/決裁：5000人未満
- マイナーな業務アプリケーション製品の種類が知りたい。使えるものかどうか試したい：IT系SW製造：情シス：10人未満
- マスタ連携における先進技術の導入事例：SI/開発業：自社情シス：500人未満
- メンテナンス性や規格の乱立：その他IT系：コンサル/提案：1万人以上
- やりたいことをすぐに探し出せるようなリンク（S/Wの紹介）などが欲しい。検索エンジンでは探し当てるのに非常に苦労する。：その他IT系：顧客システム実務：5000人未満
- ユーザーがある程度カスタマイズ出来るようにして欲しい。：その他：エンドユーザ：100人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- ユーザが、アプリケーション連携に伴うシステム変更に消極的である。：SI/開発業：顧客システム実務：50人未満
- ユーザの視点にたった開発に乏しい。：医療：導入決定/決裁：100人未満
- レガシーアプリケーションとオープンアプリケーションとの非同期連携：SI/開発業：顧客システム実務：500人未満
- ワークフローを含めた販売管理：製造業：自社情シス：500人未満
- 医療システムとして標準化策定が進んでいるが、コンテンツ自体の標準化はあまり進んでいない：医療：情シス：1000人未満
- 運用コストの低減が必要です。：IT系SW製造：顧客システム実務：50人未満
- 運用の簡易さ：サービス業：自社情シス：1000人未満
- 営業資料ばかりで技術資料が少ない。業務用要件を本当に満たせるのか、データ項目、データ量、桁数、API、パフォーマンスなどの詳細且つ具体的な情報を充実させて欲しい。さらに購入前に情報が入手出来ないのは言語道断：SI：顧客システム実務：1万人未満
- 横断的な標準ルールができれば、みんな楽になるのに、と思ったりします。：IT系SW製造：自社情シス：1万人未満
- 開発時にカスタマイズをどこまで行うか。：SI/開発業：顧客システム実務：50人未満
- 各アプリケーションで導入するのでは無く、社として1つ導入し管理やメンテナンスしていくような統合アプリケーション製品を導入していきたい。：SI/開発業：顧客システム実務：5000人未満
- 各社仕様の公開が不完全でイレギュラーな処理時の対応に苦慮する場合がある：IT系商社：顧客システム実務：50人未満
- 官公庁・自治体が推奨する標準フォーマットの利便性が低い。：SI/開発業：コンサル/提案：5000人未満
- 簡単にSOAのアプリケーションが作りたいと思っている。：IT系SW製造：自社情シス：5000人未満
- 既存プログラムがVistaに対応するかどうか？：IT系商社/流通：顧客システム実務：50人未満
- 既存技術標準との整合性、インタフェース（データ、API）の公開（GUI画面の自動操作含む）：製造業：情シス：100人未満
- 技術や運用を全く知らない業務部門がシステム開発を主管し、破綻が見えているのに誰も止められずに失敗する、ということが繰り返されていること。（経営層の無知・無理解が主因。彼らを含む全社的なITリテラシーの絶望的な不足、ITガバナンスの不在。）：建設/土木：自社情シス：5000人未満
- 技術的な課題よりも、ベンダ間での意識のすり合わせが重要で大変です：SI：顧客システム実務：500人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- 技術標準に準拠していると謳っている製品同士でも、用意に連携できないケースがあること：SI：顧客システム：500人未満
- 客先ニーズとコストが合わない：IT系SW製造：コンサル/提案：5000人未満
- 業務アプリケーションと連携相性のよい会計ソフトはなにか？：その他：コンサル/提案：500人未満
- 業務アプリケーションに関しては、自社の業務にどの程度マッチしているのか。同業他社の利用状況。初期コストとランニングコスト。等々が知りたい：商社/流通：導入決定/決裁：500人未満
- 業務アプリケーション間連携でそれぞれで扱うデータが異なり、連携する際に各アプリケーションのデータ変換が伴う。また、新たにアプリケーションを導入する場合、購入前に検証をしたいが十分にできない：SI：顧客システム：500人未満
- 業務アプリ間の連携ための情報管理の煩雑さ。：SI/開発業：顧客システム実務：100人未満
- 業務の可視化がうまく行えず、情報システム部署との調整に苦慮しています：IT系HW製造：情シス：1000人未満
- 業務の大半が紙ベースで行なわれ、必ずしもコンピュータの利用に習熟していない職員の多い中での「最低限の義務的利用範囲」の設定。：教育：自社情シス：50人未満
- 業務の標準化が思ったほど進まない、どうしてもカスタマイズが必要となる：製造業：自社情シス：1000人未満
- 近年ではすぐに組織変更が行われ業務内容もそれに伴い代わりつつある。それに伴いアプリケーションがすべて対応できない状況が問題。：SI/開発業：コンサル/提案：50人未満
- 現在の当社の業務処理は一般的なアプリケーションでは対応できず、それぞれ独自に開発してきたものである。今後もこれを維持・改良していくことを考えると、コスト的に不利になっていくのではないだろうか：製造業：情シス：500人未満
- 現在基幹業務をオフコンからPCベースに置換中。コスト及び信頼性に問題があり、苦慮中：商社：情シス：100人未満
- 現在販売されているソフトは10年もつだろうか？：SI/開発業：顧客システム実務：500人未満
- 個々のシステムが複雑すぎて、システム間の連携やデータの整合性が取りづらい：製造業：顧客システム実務：1000人未満
- 個別インターフェースも、法律の改正等で変更される可能性もありなかなか難しいことは、事実（csvがベストか？）：サービス業：導入決定/決裁：50人未満
- 個別最適されてきた背景から起こるセマンティクスの不統一(例：顧客番号・・・システムA:13桁、システムB:15桁など)：SI：顧客システム実務：1万人以上

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- 構築の手間：その他IT系：顧客システム実務：500人未満
- 今後、さらにアプリケーション連携が容易に開発出来るように全体的な効率化、統合化が図れれば生産性が向上し、導入にも踏み切れると思います。：SI/開発業：顧客システム実務：500人未満
- 今独自で開発したアプリケーションが当社の基幹となっているため、導入した製品がそのアプリケーションと連携が出来るどうかに対して不安を感じている。：通信：自社情シス：5000人未満
- 使用する業務アプリケーションが複数に至るため、1つ1つのアプリについて使用方法の修得に手間がかかる。また、インターフェースの違いにより直感的に使いにくい場合がある。：その他：エンドユーザ：5000人未満
- 市場規模：SI/開発業：コンサル/提案：5000人未満
- 市販品の業務用アプリケーションには、それぞれ良い点があるが手頃な性能を要したソフトが少ない：製造業：導入決定/決裁：50人未満
- 自社のワークフローに即したパッケージがなかなか無い：製造業：自社情シス：500人未満
- 自社の運用に合ったカスタマイズ費用の心配：製造業：自社情シス：100人未満
- 自社パッケージソフトを適用したシステムの著作権の所在について、お客様と合意がとれない：SI：顧客システム：1万人未満
- 自社開発のシステムと業務パッケージの連携の際に、パッケージからのデータ抜出などが柔軟にできるか知りたい。：製造業：自社情シス：500人未満
- 自社業務の変化が早いため開発速度が不足してしまう：サービス業：自社情シス：100人未満
- 自社内システムはハードウェア構成が貧弱で、開発環境ハードウェアスペックをそのまま本番環境に適用したりするなど、安定性や信頼性を軽視した開発が多い。：IT系HW製造：自社情シス：1000人未満
- 実際に導入した現場の「生の声」。実例が多くあれば、選択肢が増えるので：SI：顧客システム実務：50人未満
- 実例やサンプル、各種情報を入手しやすくしてほしい。そうすれば、他の部分に力を注ぐことが出来る：SI：顧客システム：1万人以上
- 社内インフラの形態に完全にマッチした製品、サービスはなかなかなく、導入しようとしても問題点があるなどで断念せざるをえないことが多い。：SI/開発業：自社情シス：1000人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- 社内のデータベースから、エクセルに出力加工し、CSV経由で他の業務用アプリに渡すのがほとんどである：その他IT系：自社情シス：500人未満
- 社内用システムのために予算が限られており、現時点では情報収集に努めている：SI：自社情シス：500人未満
- 出来ることよりも、出来ないことを明確にして欲しい：サービス業：コンサル/提案：500人未満
- 将来の保守費用が抑えられる方法：IT系HW製造：エンドユーザ：5000人未満
- 小中企業の運用例：SI/開発業：顧客システム実務：100人未満
- 障害時のジョブ運用設計について、事例などを知りたい。：SI/開発業：顧客システム実務：5000人未満
- 障害時のデータの一貫性の保証やトランザクションの実現方法：SI/開発業：コンサル/提案：1万人未満
- 障害時の原因追求が難しいこと。顧客毎の微妙な要求の違いに対応すべく、柔軟性が要求される一方で、専用設計並の簡便性も必要であること。：IT系SW製造：顧客システム実務：100人未満
- 障害復旧手順のマニュアル作り：ITコンサル：コンサル/提案：10人未満
- 情報不足。各アプリを横断した情報が入手できない。：IT系SW製造：顧客システム実務：10人未満
- 色々な事例が知りたい：製造業：自社情シス：500人未満
- 新しい技術や製品がどんどんリリースされているが、最終的には従来の方法を踏襲している。既存システムとの連携をはかりながら、新しい物をつぎたしていくと、最終的に保守困難な状態になってしまう。いろいろと悩みが尽きない：SI：顧客システム実務：100人未満
- 親会社が使うシステムとの連携になるため、親会社側のシステムに融通性がない：製造業：ユーザ：1000人未満
- 税務会計コンサルティングにおいて、税法改正に開発側がついていけない。近年、改正事項が非常に多いので特に感じる。：サービス業：導入決定/決裁：50人未満
- 他社製のアプリ（主に汎用機）とのインターフェース時に受け渡しするファイルのカスタマイズが不可で、こちら側で全て対応さなければならない（また、こちら側で、ある機能を持たせても、向こう側で、その機能が無効となってしまう）：IT系SW製造：顧客システム実務：500人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- 全体最適な統合化：その他IT系：自社情シス：5000人未満
- 多くの製品があるが、どれも豊富な機能を羅列している宣伝が多く、分かりづらい。もっとシンプルにこの方面には強い製品です、という明確な説明をして欲しい。：SI/開発業：顧客システム実務：1万人以上
- 多機能で　かえって使いにくくなってきた：その他：エンドユーザ：10人未満
- 大企業と中小企業との間にある意識のズレ。既存業務アプリケーションは、大企業視点で作成されているので中小企業では適用しにくい面がある。：SI/開発業：顧客システム実務：100人未満
- 大量トランザクション発生時のレスポンス対策が難しいこと。：SI/開発業：コンサル/提案：500人未満
- 沢山ある同種の業務アプリケーションを手早く探せる方法が欲しい。：SI/開発業：自社情シス：1万人未満
- 誰でも使いやすいシステム構築：IT系HW製造：エンドユーザ：1万人以上
- 中小企業向けに適当なERPがない：建設/土木：自社情シス：500人未満
- 帳票ツールは導入コスト・開発コストがかさむため、より低コストで使いやすい帳票ツールを安全に導入する方法はないか。：ITコンサル：コンサル/提案：500人未満
- 通信時のトラブル（多くはネットワークが原因）で操作と関係なく切断されたとき、トラブルが発覚するまでに時間がかかること。その改善策について知りたい。：SI/開発業：顧客システム実務：100人未満
- 提供するシステムの品質は向上しているとは思うが、開発生産性はむしろ悪化しているように思われる：SI：顧客システム実務：5000人未満
- 投資対効果が求められる中、導入効果の算定が不明確なことが多い。：SI/開発業：コンサル/提案：1万人未満
- 当社に見合った改善策：製造業：自社情シス：5000人未満
- 統合DBを利用時の問題点や対策事例：SI/開発業：顧客システム実務：500人未満
- 導入コストに対する効果試算が難しい：ITコンサル：コンサル/提案：5000人未満
- 導入の費用対効果をどのように出すか。導入するものが将来的にも随時継続的に使用できる体制を作ること：製造業：自社情シス：500人未満
- 導入規模が小さい場合のコストパフォーマンス。：SI/開発業：エンドユーザ：100人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント:業種:システム関与立場:ユーザー数**
- 導入決定が遅い:IT系SW製造:顧客システム実務:100人未満
- 導入後、運用面での現実とのギャップ。事前のヒアリングがたいへん重要だ:ITコンサル:コンサル/提案:500人未満
- 導入後のサポートやアップグレードに関する情報などが不足していて不満:SI/開発業:顧客システム実務:50人未満
- 導入実績や組み合わせのパターンについて知りたい。:SI/開発業:顧客システム実務:1万人未満
- 導入初期はトラブルが多いので弊害情報等が必要だと感じています:通信:コンサル/提案:1万人以上
- 導入前の製品選定で、製品の品質やメーカーやベンダーのサポート力を確認が難しい:SI:顧客システム実務:500人未満
- 特定の統合業務パッケージに関する業務ばかり行っているため、業界の全体的な動向が見えにくくなっている感があるので、トータルで見てもっとも有効な手段はなんなのかという部分を客観的に見た結果を知りたいと思っています。:ITコンサル:顧客システム実務:1万人未満
- 日々の業務に追われ技術力が付いていかない。:教育:自社情シス:5000人未満
- 日本の場合、業務アプリケーションは十人十色であり、完全なパッケージ適用はほぼ不可能と感じている。そのため、パッケージにはテンプレート(雛形)が必須と考えている。またパッケージの品質が悪いと顧客へ導入時に低品質の部分の改修・改良コストが掛かってしまう。アプリケーション連携については、基幹システムを構築する上で必須であると思っている。現状EAIツールやSOAなどで提案・構築を実施しているが、ツールで補うかアーキテクチャで対応するかが非常に悩ましいところであり、今後検討が必要と感じている。:SI:コンサル:500人未満
- 媒体への露出が少なく,（無知で不勉強な）上司を説得する材料が不足しがちであること:SI:ユーザ:500人未満
- 汎用的なHUBシステム等の環境変更負荷:IT系HW製造:コンサル/提案:1万人以上
- 非同期通信メッセージ管理のモデルが良く分からない。:SI/開発業:顧客システム実務:500人未満
- 必要な製品情報が得にくい、カタログ情報ではない情報が欲しい:製造業:エンドユーザ:500人未満
- 複数アプリでのデータの共有、連携:製造業:自社情シス:500人未満
- 複数ベンダの複数製品を組み合わせた場合、障害発生時の原因切り分けが非常に難しい:SI:顧客システム:5000人未満
- 米国の先進的Userの事例情報:商社/流通:導入決定/決裁:1万人以上
- 本当に必要な情報が特定できない:SI/開発業:顧客システム実務:1万人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

AP製品導入や連携に関する問題点／知りたい情報

MIJS

- **コメント：業種：システム関与立場：ユーザー数**
- 毎度DBに直接アクセスするように実装するからシステム同士の依存性が高くなっており、修正の影響範囲が大きくなってしまうことが問題だと思っている。：SI/開発業：顧客システム実務：50人未満
- 目的に合致した有効な情報の収集が非常に難しい。：商社/流通：導入決定/決裁：100人未満
- 問題点：カスタマイズが必要になる事。：建設/土木：自社情シス：100人未満
- 様々なシステムを連携しなければならない昨今の状況で，独自規格の機能を作りこむことは罪悪だと思う：SI：コンサル/提案：1万人以上
- 連携のタイミングをリアルリム処理するか、バッチ処理するか。：製造業：自社情シス：100人未満
- 連携手段があらかじめ用意されていない場合の連携手段。：SI/開発業：顧客システム実務：1000人未満
- 連携製品が少ない。：IT系SW製造：エンドユーザ：5000人未満
- 連携方法の技術的な統合がされない。Framework3.0に期待：SI/開発業：コンサル/提案：5000人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

MIJSに期待する活動／成果

・メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア・コンソーシアム（MIJS）は、日本の有力ソフトウェアベンダーが結集し、製品の相互連携を行って海外展開および国内ビジネス基盤の強化を図るため、2006年8月に結成されました。

・（2006年11月現在の参加企業：アクセラテクノロジ、アプレッソ、インフォベック、ウイングアークテクノロジーズ、ウッドランド、エイジア、エス・エス・ジェイ、クオリティ、構造計画研究所、サイボウズ、システムインテグレータ、ソフトブレーン、東洋ビジネスエンジニアリング、HOWS、ビーエスピー、フレームワークス、弥生、リード・レックス）

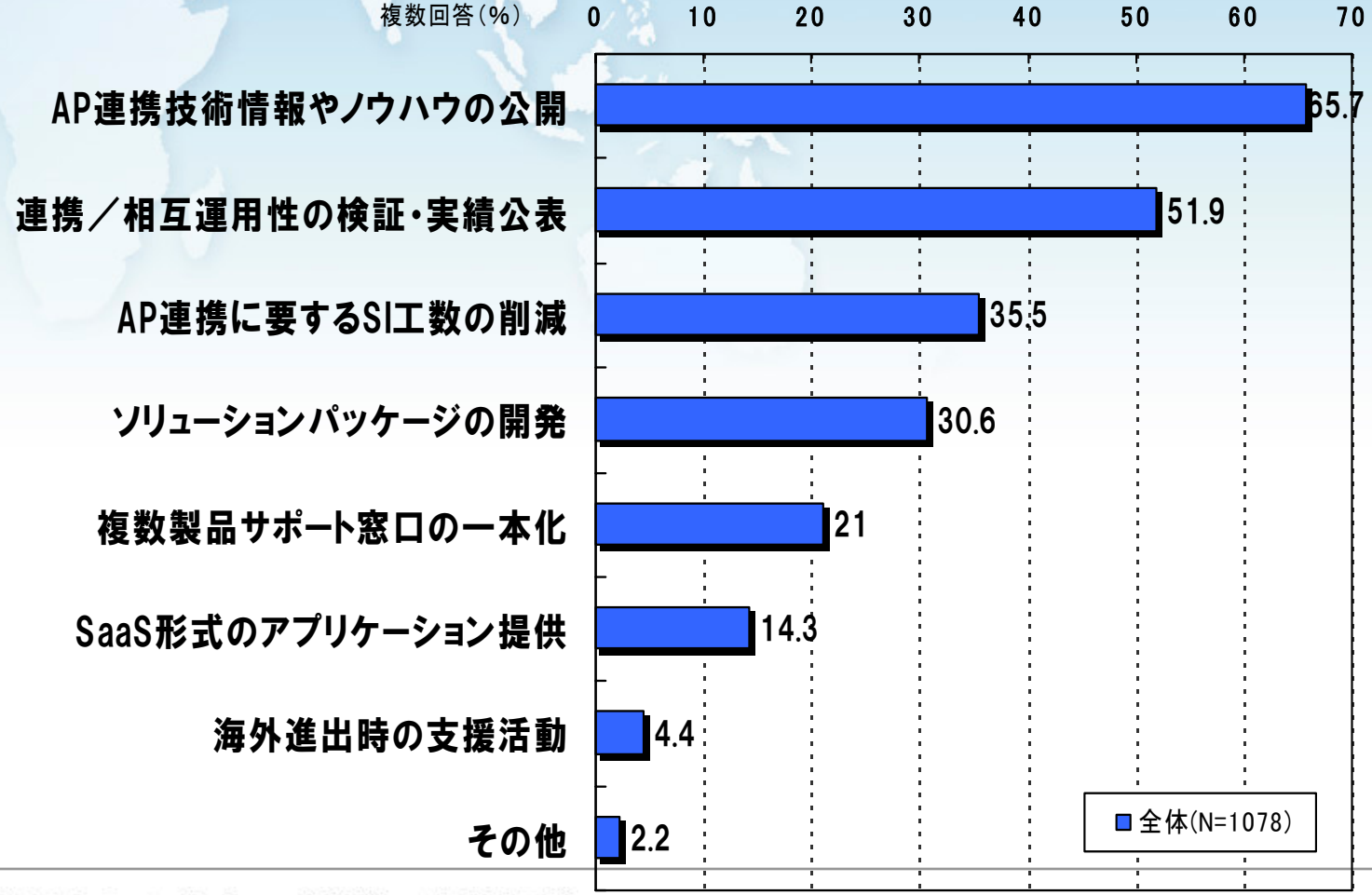
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

MIJSに期待する活動／成果

MIJS

- MIJSにもっとも期待されているのは「AP連携に関する技術情報やノウハウの公開」であり、次いで「AP製品間の連携／相互運用性の検証・実績公表」でした。

•MIJSでは今後日本でトップクラスの製品群を連携してソリューションとしてまとめ、高まる顧客ニーズに柔軟に対応することを目指します。あなたがMIJSに対して期待される活動や成果がありましたら、いくつでもお選びください。



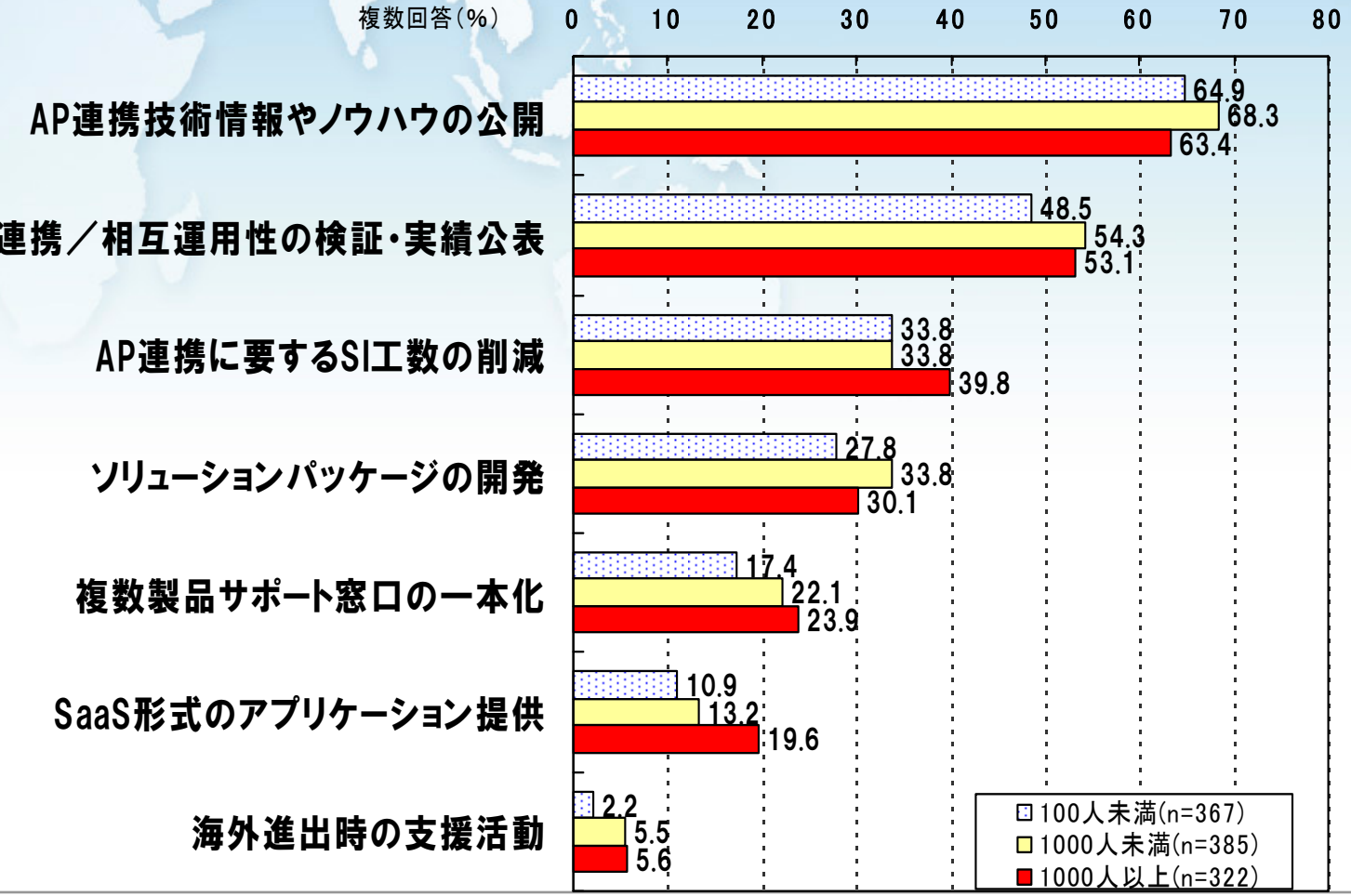
Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

MIJSに期待する活動／成果（規模別）

MIJS

■ 大規模システム層の2割が、SaaS形式のアプリケーション提供に期待しています。

•MIJSでは今後日本でトップクラスの製品群を連携してソリューションとしてまとめ、高まる顧客ニーズに柔軟に対応することを目指します。あなたがMIJSに対して期待される活動や成果がありましたら、いくつでもお選びください。



Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

MIJSに期待する活動や成果(「その他」の内容コメント)

MIJS

- **コメント:業種:システムに関わる立場:ユーザー規模**
- 「標準」への準拠。バージョンアップやシステム入替時の移行の容易さ。運用時の人的・金銭的なコスト低減:建設/土木:自社情シス:5000人未満
- アプリケーション連携に関する総合試験場の提供:製造業:自社情シス:5000人未満
- オープンソース化の促進:SI/開発業:コンサル/提案:5000人未満
- クライアントにモバイルも想定して作ってください。:サービス業:コンサル/提案:500人未満
- クロスプラットホーム化:その他IT系:導入決定/決裁:10人未満
- コストメリットが知りたい:商社/流通:導入決定/決裁:500人未満
- ソフトハウスの長期的なサポート体制と、保守管理する技術者の恒久的な確保体制と、技術の継続維持体制のあるグループ:製造業:エンドユーザ:50人未満
- どのくらいの密度、頻度、連携の度合いをできるのかをはっきり表面化すること:商社/流通:導入決定/決裁:100人未満
- フレームワークの確立:SI/開発業:顧客システム実務:1000人未満
- 欧米に比べ、日本のソフトウェアは独創性がなく、かつ、使えない。:金融:自社情シス:1万人未満
- 海外製品よりも「良い」と広く認知される事:SI/開発業:自社情シス:50人未満
- 既存システムから乗り換える際のデータ移行は考えて欲しい:SI/開発業:自社情シス:5000人未満
- 業界等分析データの公表等:SI/開発業:コンサル/提案:5000人未満
- 上記、14を解消させる方法をしりたいです。:SI/開発業:顧客システム実務:1万人以上
- 導入コストの低下:その他IT系:自社情シス:10人未満
- 標準フォーマットを決め、他社とのパッケージとも連携できるようになれば望ましい:製造業:自社情シス:500人未満
- 無償もしくは廉価な機能制限バージョンの配布:教育:自社情シス:50人未満
- 連携のためのAPI実装とその公開:SI/開発業:顧客システム実務:100人未満

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.

Copyright © 2007 Made In Japan Software Consortium.